決算審査特別委員会

平成21年9月14日（月曜日）

決算審査特別委員会

平成21年9月14日（月曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 2号 平成20年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について
議案第 3号 平成20年度旭市老人保健特別会計決算の認定について
議案第 4号 平成20年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について
議案第 5号 平成20年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について
議案第 6号 平成20年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について
議案第 7号 平成20年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について
議案第 8号 平成20年度旭市水道事業会計決算の認定について
議案第 9号 平成20年度旭市病院事業会計決算の認定について
議案第10号 平成20年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について

出席委員（12名）

委員長	神子 功	副委員長	佐久間 茂 樹
委員	高木 武 雄	委員	日下 昭 治
委員	木内 欽 市	委員	柴田 徹 也
委員	嶋田 哲 純	委員	景山 岩三郎
委員	林 七 巳	委員	伊藤 房 代
委員	島田 和 雄	委員	平野 忠 作

欠席委員（なし）

委員外出席者（2名）

議長	向後 和 夫	副議長	林 一 雄
----	--------	-----	-------

説明のため出席した者（42名）

副市長	増田雅男	病院事務部長	渡辺清一
財政課長	加瀬正彦	税務課長	野口徳和
保険年金課長	花香寛源	高齢者福祉課長	渡辺輝明
農水産課長	林清明	下水道課長	佐藤邦雄
会計管理者	高山重幸	水道課長	横山秀喜
監査委員 事務局員	林久男	国民宿舎 支配人	堀川茂博
病院技監	作田重	病院事務次長	石鍋秀和
病院契約室長	太田信春	病院経理課長	鈴木清武
病 再整備室 その他担当 職員	鏑木友孝	病院整備課長	永嶋英和
	24名		

事務局職員出席者

事務局長	加瀬寿一	事務局次長	石毛健一
主査	穴澤昭和		

開議 午前10時 0分

○委員長（神子 功） おはようございます。

9月11日に引き続きまして、大変ご苦労さまでございます。

本日は、特別会計及び企業会計決算についての審査となります。委員の皆さんにおかれましては、慎重審議をしていただきますようよろしくお願いいたします。

ここで委員会を開会する前に申し上げます。

この後、議会だより取材のため、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了解願いたいと思います。

ただいまの出席委員は12名、委員会は成立いたしました。

それでは、ただいまより決算審査特別委員会を開会いたします。

本日、9月11日に引き続きまして、向後議長と林副議長に出席をいただいております。代表して向後議長に、ごあいさつをお願いいたします。

議長、お願いします。

○議長（向後和夫） どうも皆さん、おはようございます。

9月11日の決算委員会、途中退席をいたしまして大変申し訳ございません。今、非常に空気が乾燥してまいりまして、陽気も暑かったり寒かったりということで、非常に風邪の引きやすい時期でありますから、健康には十分、皆さんもご留意を願いたいと思います。

今日は、本当に委員の皆さん、ご苦労さまでございます。9月11日の議案第1号の一般会計決算では、時間延長しての審査ということで大変お疲れさまでございました。

本日は、議案第1号に引き続きまして、議案第2号から議案第10号までの特別会計及び企業会計について審査をしていただくということになっております。どうぞよろしくご審議のほどをお願いをいたしまして、私のあいさつとさせていただきます。大変ご苦労さまでございます。

○委員長（神子 功） ありがとうございます。

議案説明のため副市長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して、増田副市長よりごあいさつをお願いいたします。

増田副市長。

○副市長（増田雅男） おはようございます。

9月11日に引き続き、決算審査特別委員会の開催、大変ご苦労さまでございます。

本日の特別委員会に審査をお願いいたしますのは、平成20年度の特別会計、公営企業会計の各決算議案9件でございます。執行部といたしましては、委員の皆様方からのご質問に対しましては、簡潔に答弁するよう努めてまいります。何とぞ全議案認定くださいますよう、よろしく審査をお願い申し上げます。

ここで1点報告させていただきます。

内容は、新型インフルエンザの件で、海上中の1年生4名と嚶鳴小の6年生2名が感染いたしました。直ちに保健所へは連絡し、学校医と協議の上、本日、両校ともこの児童・生徒の所属するクラスを学級閉鎖といたしました。なお、容体は安定しているとのことでございます。あす以降につきましては、様子を見て学校医と協議の上、対応するとのことでございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） ありがとうございます。

ここで増田副市長は、所用のため退席をいたします。

しばらく休憩いたします。委員の皆さんはそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 4分

(副市長退席)

再開 午前10時 4分

○委員長（神子 功） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の説明、質疑

○委員長（神子 功） ただいまより本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る9月7日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案第2号から議案第10号までを順次議題といたします。

本日の審査方法については、議案第2号から議案第10号までの9議案を三つに区分し、初めに、特別会計のうち議案第2号から議案第5号までを、次に、議案第6号と議案第7号、

最後に企業会計の議案第8号から議案第10号までの区分ごとに順次審査を行いたいと思います。

なお、会場の都合により、担当課の入れ替えを、ただ今申しあげました三つの区分ごとに行いたいと思いますので、よろしく願いいたしたいと思います。

ここで税務課、また財政課より、9月11日の一般会計決算の件で説明したい旨の申し出がありますので、よろしく願いいたします。

税務課長。

○税務課長（野口徳和） 先週の決算審査特別委員会におきまして、前年度決算の収入未済額と翌年度滞納繰越分調定額の違いについて、説明がちょっと分かりづらかったと思いましたが、今回、この表を作りまして、改めてご説明させていただきます。

お手元の資料のほうをご覧いただきたいと思います。

一例としまして、平成20年度中に過年度分の所得に修正があり、市民税が減額になった場合です。一番左側の平成19年度で市民税の課税が100万円調定されました。それで、下のほうへ行きまして、この100万円が全額滞納と、収入未済額になった場合に、平成20年度におきましては、この100万円がそのまま当初の調定額になります。それで平成20年度の途中に修正申告により平成19年度分の減額、100万円を90万円に更正が出た場合、この場合には右へ行きまして滞納繰越調定額を減額いたします。90万円となります。そうしますと、滞納繰越分の平成20年度決算時点では90万円ということで10万円が収入未済額が減額になるということでございます。

それで、その上にありますけれども、滞納がない場合、これは当初、当然滞納がございませんのでゼロということで、平成20年度途中で修正申告10万円の部分につきましては、前年度納付済ということで10万円を歳出のほうから還付すると、こういう手続きになります。よろしく願いいたします。

○委員長（神子 功） 続いて、財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） それでは、9月11日の決算委員会で、佐久間委員からご質問のありました件で、消防本部より一覧にして提出がございましたので配布させていただいております。それぞれ必要な消耗品について購入したものでございまして、1枚めくっていただきますと、消耗品の執行分ということで、縦の欄と横の欄で整理してございます。縦として被服費、それから救助隊関係、救急隊関係、消防隊関係、総務関係、機器その他の消耗品ということで、縦へずっと積み上げますと、それぞれ合計額が出てまいりまして、一番下の欄外の

総合計ということで1,313万9,032万2,000円というこの数字でございます。これらはそれぞれ必要な消耗品を購入したものでございますので、ご理解いただきたいと思っております。

それと、研修関係の負担金につきましてもご質問がございまして、それは次のページに整理してございます。これもその研修の分野ごとに整理してございます。一番大きなものは、左側の下の枠、消防学校入校関係20年度分ということで401万6,071円というような数字でございます。これはそれぞれ、その消防署に入った時期、それから必要な人員の確保、そういったものをするために研修を受けさせている、これでご理解いただきたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（神子 功） ありがとうございます。

税務課、財政課の説明は終わりました。

ただいまの件で確認のため、何かお聞きしたいことがありましたらお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

日下委員。

○委員（日下昭治） 税務課長、ちょっと確認の意味でということですので、ちょっと教えていただきたいなと思っておりますけれども、例えば前年度は滞納がなかった際には、何ですか、過誤納付金という項目がありますよね、それに還付、例えば10万円というのは、そこへ入ってくるんですか、この分は滞納がなければ。滞納があった場合には、必要に応じて修正をされた際に調定額が漠然とというか、変わってきちゃうということになるのでしょうか。

併せて、もし例えば昨年度、決算をやっているのは昨年度であるんですけれども、三百二十何万だったと思っておりますけれども、その辺は何件くらいが対象になるのか、ちょっと参考のために教えていただきたいと思っております。

○委員長（神子 功） 税務課長。

○税務課長（野口徳和） 滞納がなかった場合の還付ですけれども、決算書でいいますと93ページに、一番下に市税の還付金というのが2,009万7,637円と出ています。これについては平成20年度分、例えば平成19年度こうなった場合には、平成20年度分、ここの歳出から10万円を還付するという形になろうかと思っております。

それから日下議員の件数、ちょっと質問が分からなかったんですけれども、もう一度よろしいでしょうか。

○委員長（神子 功） 日下委員。

○委員（日下昭治） 昨年度、調定額に変わっているのが三百二十何万円、変わっていますね。

例えばその三百二十何万円というのは、当然、何件かあって、積み重ねがそうだと思いますけれども、概略でよろしいので、例えば金額の大きいのは、金額が幾らぐらいのやつが何件くらい、頭、上でいいです。上と下もありますから、上がどのくらい、例えば100万円の方もあるかもしれませんが、3万円、1万円というのものもあるかも分かりません。その辺で合計で何件くらいになるのか、ちょっと。

○委員長（神子 功） 税務課長。

○税務課長（野口徳和） 今のご質問は、国保会計のほうですか。

○委員長（神子 功） 日下委員。

○委員（日下昭治） じゃ、もう1回、あれしますね。昨年の収入未済額が3億8,351万9,091円だと思います、平成19年の未済額が。それで平成20年度の調定額が3億8,026万75円、私の計算が間違っていなければその差額が325万7,016円、そうしますと、その金額の中に大きいのと小さいのがあると思いますし、それが何件くらいなるのか、その辺。

○委員長（神子 功） 税務課長。

○税務課長（野口徳和） 市税のほうの件数ですけれども、これは修正申告が18件、それから税源移譲による市県民税の減額申告が61件、これをやったのが一番主なものということで、この修正申告18件については、ちょっと大きい金額とか小さい金額とか、それは把握していません。

市県民税の減額申告につきましては、もう最高額が9万7,500円となっていますので、市県民税61件の最高額が9万7,500円です。よろしいでしょうか。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（神子 功） 確認は終わりました。

それでは議案の審査を行います。

初めに、議案第2号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それでは、旭市国民健康保険事業特別会計決算につきまして、事業勘定、施設勘定と順を追って説明いたします。

なお、本会議におきましては、決算書を基にご説明いたしましたので、本日は皆さんに配ってあると思います、決算に関する説明資料、こちらでございます。この資料のほうで補足説明を申し上げます。

説明書をご覧いただきたいと思います。

まず1ページ、1の世帯数と被保険者数の推移ですが、平成20年度の欄をご覧ください。年間平均ですが、世帯数は1万3,557世帯で前年度比11.3%の減であります。

次に、被保険者数の総数は2万9,788人で前年度比19.7%の減となっております。いずれもだいぶ減少しておりますが、これらの理由は75歳以上の方々が国保を脱退して、後期高齢者医療へ移られたためであります。

続いて、2の国保加入率の推移、平成20年度末の欄をご覧ください。

世帯割合ですが、住民基本台帳における旭市の世帯数は2万3,547世帯で、そのうち国保世帯は1万3,444世帯となっております。全体に占める割合は57.1%となっているものであります。それを人数で換算いたしますと、旭市の住基人口が6万9,226人、国保被保険者数が2万9,606人となっております。その占める割合は42.8%となるものであります。

2ページをお開きください。

3の保険給付の状況ですが、2ページの下欄の合計欄をご覧ください。一番下になりますが、平成20年度における保険給付費の総額は47億5,482万4,000円となり、前年度比1.5%の減となっております。これを1人当たりの給付費で割り返しますと15万9,622円となり、対前年度比で1.1%の増となっております。

続いて、3ページをご覧ください。

ここでは右上の表の短期人間ドックの欄をご覧ください。人間ドックの種類といたしましては、日帰りのコースと1泊2日のコースに分かれるわけですが、これらの実施件数の合計は370件となるものであります。

4ページをお開きください。

国民健康保険税の収納状況について簡単にご説明いたします。

①の表でございます。平成20年度の現年度分ですが、収入済額をご覧ください。24億4,613万円を収納いたしまして、収納率は87.6%となるものでございます。

次に、右側の滞納繰越分をご覧ください。収入済額が1億6,230万1,000円、不納欠損額が7,980万3,000円となりまして、収納率は13.5%であります。

5ページをご覧ください。

国保被保険者のうちの老人保健該当者の給付状況についてご説明いたします。一番上の表の平成20年度の欄をご覧ください。老人保健の対象者数は6,503人です。この下の表の合計欄をご覧ください。保険者負担額の一番下の欄になりますが2億5,546万8,000円とな

りまして、対前年度よりも91.7%の減少となっております。この理由は後期高齢者医療制度の発足に伴いまして、平成20年度における支出が20年3月診療分の1か月分と過去の過誤納付分に限定されたためであります。

次に、右側の表の6、真ん中ですね、老人保健拠出金の状況についてご説明いたします。これは国保、老人に係る拠出金でありまして、前々年度の医療費の実績を基に算出されるもので、やはり1か月分の支出となります。右側の計の欄をご覧ください。1億90万3,000円となるものであります。

続いて、この表の下の8の後期高齢者支援金の状況についてご説明いたします、8番ですね。これはゼロ歳から74歳までの国保被保険者が後期高齢者に係る医療費の一部を負担するために新たに発足されたもので、平成20年度は11か月分の積算となります。総額で1億7,568万1,000円の支出となりました。

6ページをご覧ください。

最後に施設勘定の滝郷診療所の状況について簡単にご説明いたします。平成20年度の欄をご覧ください。1年間における診療日数は243日で診療収入は6,495万円と、ここ3年間は6,500万円前後を推移しているところであります。

以上をもちまして平成20年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の補足説明を終わります。

○委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。

議案第2号について質疑がありましたらお願いいたします。

木内欽市委員。

○委員（木内欽市） 施設勘定のほう、基金は今現在お幾らぐらいありますか。

○委員長（神子 功） 木内委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 平成20年度末で4,020万4,000円でございます。

○委員長（神子 功） 木内委員。

○委員（木内欽市） 今年幾ら入るのか。

○委員長（神子 功） 保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それで、平成20年度決算で歳計剰余金処分として積立金1,000万円やっております。それと利子を含めまして5,022万4,000円となっております。

○委員長（神子 功） 木内委員。

○委員（木内欽市） ありがとうございます。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

景山岩三郎委員。

○委員（景山岩三郎） おはようございます。ご苦労さまです。

課長、今の説明で、短期人間ドックの内容については、ここに書いてあり分かりましたけれども、たしか平成20年度から特定健診と国保も実施されると思いますけれども、この際、特定健診のほうも説明していただけますか。

○委員長（神子 功） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 説明が足りませんで申し訳ありませんでした。

それでは、特定健診事業につきましてご説明いたします。

恐れ入りますが、決算書のほうでご説明したいと思いますので、決算書の389ページをご覧になっていただきたいと思います。

389ページの備考欄、一番下のところにありますが、特定健康診査事業といたしまして7,345万9,908円が総事業費となっております。

それで391ページをご覧になっていただきたいと思います。

そのうち委託料としまして6,827万5,561円がかかったわけですが、その内訳は市内16医療機関へ委託して実施した個別健診に5,298名、それからJ A厚生連へ委託して実施した集団健診に4,765名、それからそれにJ A厚生連による農業者健診に163名の計1万226名の方が受診されております。これを年齢階層別に分類しますと、35歳以上39歳以下の方が186名、40歳以上74歳以下の方が8,053名、75歳以上の方が1,987名となっております。

なお、65歳以上の方につきましては、同時に生活機能評価も実施しておりまして、その受診者数は4,959名となっております。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） どうもありがとうございます。

そうすると、ついでにこの決算書の391ページの備考欄に、特定保健指導事業というものがありますが、特定健診と抱き合わせての事業だと思いますので、引き続きちょっと説明してください、お願いします。

○委員長（神子 功） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それでは、特定保健指導事業についてご説明いたします。

決算額は116万1,274円と特定健診事業に比べまして経費がだいぶ低くなっております。この理由は、健康管理課の保健師による指導ということで、外部への委託がなかったことから、指導テキスト代や通信費等、安い経費でおさまったわけでございます。

保健指導の実施状況ですが、動機付け支援が対象者802名のところ206名が受けられました。これは面接による指導が1回限りというものであります。これ以外に積極的支援というものがありますが、これは半年間、継続して指導を続けるというもので、対象者は538名のところ129名が受けられました。したがって、保健指導の利用者は合計で335名となり、そのうち6割の方々がメタボリックシンドロームに対する予防観点を深められたということになります。

以上でございます。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

柴田徹也委員。

○委員（柴田徹也） 1点だけお尋ねをいたします。

決算に関する説明資料の3ページ、保険給付の内訳の、そのうちの真ん中の任意給付、その葬祭費ですけれども、平成19年度と平成20年度でだいぶ大きな開きがありますけれども、これは今、話をしていた後期高齢者医療制度の関係だと思えるんですけれども、確認です。

○委員長（神子 功） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それでは、葬祭費の支給件数でございますけれども、平成19年度につきましては575件ありました。平成20年度が170件でだいぶ減っております。その要因としましては、今、柴田委員もおっしゃったとおり、平成20年4月から後期高齢者医療制度が始まりました。これによりまして75歳以上の方々を国保のほうから切り離して移行になったもので、その結果、保険料を徴収する千葉県後期高齢者医療広域連合ですか、そちらのほうで葬祭費を支出することになりまして、国保の支給件数が一気に減少したということです。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 柴田委員。

○委員（柴田徹也） ありがとうございます。

じゃ、ちなみに広域連合が旭市分として支給している件数は何件ぐらいですか。

○委員長（神子 功） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 広域連合が旭市分として支給した葬祭費の件数は504件でございます。それを含めると昨年度より多いわけですが、これは広域連合のほうは、元社会保険の方も含まれておりますから、国保のみの件数というものは、ちょっと把握はできません。

以上でございます。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

高木武雄委員。

○委員（高木武雄） それでは説明資料でちょっとお伺いをします。

4ページの保険税の収納状況ということでございますけれども、後期高齢者になっても、やっぱり年々収納率が下がっている、悪くなっているというような現状でございます。そうした中で、やはり不納欠損も出ております。まず第1点として、不納欠損にならないように、その事前にどのような対策をとられたのか。あるいは不納欠損ではなくて、未収の人には保険、いろいろ短期証明書とか、そういうものがあると思うんですが、その内訳も分かればお願いいたします。

それともう一点、その次のページ、老人保健拠出金の状況と、その下の後期高齢者支援金、これは平成19年度と、今度は後期高齢者医療になっても、この負担金というのはあまり変わらないようなんですけれども、支出の性質が同じものなのかどうか、この2点お願いします。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（野口徳和） 不納欠損の状況ですけれども、これは市税のときにも申し上げましたけれども、市税と違って、国民健康保険税につきましては所得の低い方がかなり入っているということで、なかなか低所得者については差し押さえは難しい面があると。ただ、中には高額な滞納額も生じますので、そういう方につきましては、市税と併せまして滞納処分、差し押さえ等、実施しております。

それからあと、滞納対策としまして月に2回、夜間納税窓口、10日と25日、閉庁日には翌日やっていますので、あと、年間に日曜徴収が年に3回、それと国保を専門に納税相談窓口を日曜日に2回やっている。そういうことで、なるべく徴収向上のほうに努めるようにして

おります。

それから、先ほどの未収の内訳と言いましたけれども、不納欠損の内訳ということでしょうか、それとも……

○委員長（神子 功） 高木委員。

○委員（高木武雄） 先ほど、私、言ったかと思えますけれども、そうじゃなくて、未収入金を上げるために、どういう対策をとられるか、それで結構です、その種類はいいです。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 資格証の交付の数でよろしいでしょうか。平成20年度で世帯数としまして394世帯、被保険者数としまして593人です。

それと、先ほど質問の5ページですか、老人保健拠出金の平成19年度分と後期高齢者支援金の状況で平成20年度分、大して変わらないんじゃないかということでございますけれども、老人保健拠出金の状況につきましては、これは年度1年間の支出でございますけれども、後期高齢者医療の支援金については11か月分でございます。

（発言する人あり）

○保険年金課長（花香寛源） 性質的には同じものでございます。ただ、この算出の関係ですが、老人保健拠出金につきましては実績に基づいて拠出されますけれども、後期高齢者の支援金については、これは全国ベースでならしまして、その人数とか、それによって算出されるもので、そうすると実際の話、当市は医療費が安いと言われていまして、ちょっと高いほうに設定されている。ですから、ちょっと後期高齢者支援金のほうが若干多いのかなという形になります。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 高木委員。

○委員（高木武雄） 先ほどの短期証明書というのは、これは未収というか、支払いが滞っている方に出されるのか。全然、少しでも持ってきたと言ったら具合が悪いかもしれないけれども、納めた人に対して出すのか、その辺、全然これは不納欠損も出るようでございますので、全然払っていない方はどうなるのでしょうか。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 先ほど資格証の人数を申し上げましたけれども、例えば1年以

内に払っているとか、その期間なりそういったもので、資格証のほかに短期証、1か月とか、そういうものを交付しております。ちなみに短期被保険者証については、1か月証が、これは平成20年度のあれですけれども、622世帯で、被保険者数は1,491人、3か月証が362世帯で841人、6か月証が339世帯で690人となっています。

以上です。

○委員長（神子 功） 保険年金課長、資格証明書と短期証明書は同じですかということと別々ですかと。別々であれば、その説明をということで説明願えればと思います。

高木委員。

○委員（高木武雄） いろいろ1か月、3か月、6か月は分かったんですけども、これに当てはまる条件というか、どういう条件の場合は1か月になるのか3か月になるのか、あるいは資格証明になるのか、その辺をお願いします。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それでは失礼しました。5期から8期納めていない場合には6か月証、9期から16期が3か月証、17期以上が1か月証、資格証は納税に全く対応してくれない方です。

以上でございます。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

高木委員。

○委員（高木武雄） おおむね分かりました。

それと先ほどの5ページの話で、もう一度お伺いしますけれども、老保の拠出金は、実績に合わせて払うから安かった。この高齢者の場合は一律だから高くなった、そういうふううに今、ちょっと説明聞いたので、その理解でいいですか。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 老人保健の拠出金は実績、後期高齢者の関係は支援金、これは全国平均で人数なり、それなりの算定でもってやるという。そうすると、全国ベースでいいますと、千葉県の中でも当市は医療が安いものですから、全国ベースになっちゃうと、何と云うんですか、もとの数字が高いと。

○委員長（神子 功） 高木委員、よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

日下委員。

○委員（日下昭治） 税務課長、ちょっとやっぱり先ほどこの辺の調定の違いも、先ほどの市税と同じような形で変わってくるということで、それはそれで同じ対応ですよ。じゃ、後でその辺を、ちょっとまだ、もしあれだったらですけども。

それと調定額、医療費分が世帯で14万3,169円ですか、1人当たり6万5,158円と。昨年と比較すると、世帯当たりで2万8,000円くらい違う。個人だと5,000円くらい違うと。その辺が、いろいろ何か背景的なものはあろうかと思えますけれども、その辺も併せてお願いできればと思います。

それと最後に、一般会計へ繰り出す、決算書で5,570万6,000円ですか、それはやはり余って、国保財調へ入れるのではなくして、一般会計のほうへ戻すというか、一般会計へは来ていないと思うんですけども、それを繰り出すことは一般会計へ入れるということだと思いますけれども、その辺のものをちょっと説明をお願いできればと思います。

それと、後期高齢者医療の関係で、恐らく県下4自治体が平均より安いのかな、そうすると、その辺はあとはだいたい同じで、かなり差があるところだけ4自治体くらい安いと、納付金が、そうでなかったですか。その辺、恐らく旭市はそういう中で安くなっていることは分かりますけれども、例えば先日の一般質問でもちょっとやりましたけれども、例えば房州のほうなんていうのは国保の1人当たりかかるのがすごく高いんですよ。そうしますと、そういったものと比較した場合には、こっち側が率が悪くなるんじゃないかなと、そんな心配をするわけですけども、そういうことで例えば隣の銚子市にしても、あれは年報ですから18年にももらったものですけども、約8万円違うんですよ。そうしますと、多分それがすぐ当てはまるかということではないでしょうけれども、その辺をやはり何らかの形を、率が悪くなるのを、上限、平均でやりますから、高く払っているところはいいんですけども、医療費の低いところは余計なものを出すというような認識もしてしまいますので、その辺を何か一因としたものがあるのかどうなのか、その辺ちょっとお願いします。

○委員長（神子 功） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（野口徳和） 決算書の365ページの関係で、国民健康保険税のほうで収入未済額の関係で調定が動きますのは、社会保険の加入がほとんどでございます。といいますのは、国保から抜けて社会保険に加入した場合、すぐ届けてくれればいいんですけども、後にな

ってしまう、それがほとんどでございます。

それから、保険料の関係で、平成20年度に世帯と1人当たりが上がっているということなんですけれども、後で保険年金課長からあれば補足説明してもらいたいですけれども、これは基本的に平成20年度は75歳以上の方がすぽっと抜けましたので、一概に比較はできないんですけれども、ただ、税率改正で限度額、そういうのは引き上げましたので、そういう方の世帯については負担増になっていると思います。ただ、下げた分もありますので、資産割は10%下げたところがありますので、一概には比較できませんけれども、そういうので上がっているところがあるかなと思っています。

○委員長（神子 功） 保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それではまず、一般会計の繰出金の関係5,570万6,000円ですか、これについては事務費相当分ということで、予算上で例えばこの事業費でいいますと総務費であります。1款、それが事務費相当分で一般会計から繰り出して入ってきます。実際に使われなくなってきました、100%使いませんので、それがこの繰り出しについては平成17、18、19年度分、3か年分の精算で、その部分を返すという形です。

（発言する人あり）

○保険年金課長（花香寛源） そうです。

それから先ほどの後期高齢者の支援金と老人保健の拠出金、差があると、その辺のところはということなんですけれども、これは国のほうでは、あと2年後に、いわゆる高い低いがありますので、その辺のところは、これも精算という言葉になっちゃうかもしれませんけれども、調整して精算するというような話をしております。ですけれども、今度政権が代わりましたので、その辺のところはちょっと不透明な部分があるのかなと。これについても、いろいろな面で県のほうには話をしていきたいと思っています。

○委員長（神子 功） 日下委員。

○委員（日下昭治） ある程度、そういう検討はされているということなんです、還付をするなりなんなりの、分かりました。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 議案第4号の説明資料の中で、4号いいですよね……。

○委員長（神子 功） 2号です。ただいま議案第2号の審査をしております。

ほかに質疑はありませんか。

島田和雄委員。

○委員（島田和雄） 保険税の収納状況ですけれども、現年度分、また滞納繰り越し分ですか、両方とも徐々に収納率が下がっているということでもありますけれども、時代の不景気だというような理由もあろうかと思えますけれども、周辺の自治体と比較して旭市はどういう状況なのか。また県平均ですか、その辺とも比較していただければと思います。

それともう一点は、滝郷診療所の状況なんですけれども、患者数が若干減っている中で、診療の収入としては増加していますけれども、何かこの原因が考えられるものがあれば伺いします。

○委員長（神子 功） 島田和雄委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（野口徳和） 近隣との徴収率の状況ということですのでけれども、平成20年度はちょっと正式に公表されていませんで、平成19年度の状況でお答えいたします。平成19年度の国民健康保険税の旭市は、県下56市のうち35番目でございます。それで匝瑳市は44番目……

（発言する人あり）

○税務課長（野口徳和） 率ですか、現年課税分が旭市は平成19年度88.78%、滞納繰り越し分が14.75%で、トータル68.04%。それから匝瑳市、現年が88.09%、滞納繰り越し分11.15%、トータル63.35%です。それから銚子市、現年課税分が86.53%、滞納が23.43%、トータル70.09%ということでございます。

県平均につきましては、現年課税分が88.71%、滞納繰り越し分が13.99%、トータル67.49%ということで、旭市は県平均よりは上を行っています。

○委員長（神子 功） 保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 滝郷診療所の収入の関係ですけれども、患者数が減っているのに収入がちょっと増えているのではないかと、その要因はということですのでけれども、これは聞きましたところ、薬だけという方がいるんですけれども、その長期、1か月なら1か月、薬をもらう、そういった方がちょっと増えているという傾向はあるそうです。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（神子 功） 特にないようですので、議案第2号の質疑を終わります。

続いて、議案第3号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それでは、旭市老人保健特別会計決算につきましてご説明いたします。

また、本会議では決算書を基にご説明したので、本日は決算に関する説明資料のほうで補足説明を申し上げます。

説明資料をご覧いただきたいと思います。説明資料は1ページのみとなることから簡潔にご説明したいと思います。

老人医療費の支給状況ですが、その内容を分類いたしますと、入院、入院以外の外来、歯科診療、薬剤である調剤、それに下の表に行きまして、看護師等による訪問看護療養費、そしてコルセット代等に対する現金支給分となるものであります。これらにかかった金額を合計いたしますと、平成20年度は3億6,449万4,000円となり、これは対前年度比で90.9%の減となるものであります。

この大幅な減少の要因でございますけれども、平成20年3月末で老人保健制度が廃止となったことから、この会計での支出が月遅れで請求のあった3月診療費の1か月分と、それ以前の診療に係る過誤納未済分だけが対象となったものであります。

簡単ではございますが、以上で平成20年度旭市老人保健特別会計決算の補足説明を終わります。

○委員長（神子 功） 担当課の説明が終わりました。

議案第3号について質疑がありましたらお願いいたします。

（発言する人なし）

○委員長（神子 功） 特にないようですので、議案第3号の質疑を終わります。

続いて、議案第4号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） それでは、旭市後期高齢者医療特別会計決算につきましてご説明いたします。

やはりこれも本会議では決算書を基にご説明いたしましたので、本日は決算に関する説明資料のほうで補足説明を申し上げます。

説明資料をご覧いただきたいと思います。説明資料は1ページのみとなりますので簡潔にご説明いたしたいと思います。

まず、1の表にあります被保険者数ですが、年間平均で8,333人となりまして、そのうち1,528人の方々が社会保険において被扶養者であったということでありまして、また、この表

中、65歳以上74歳以下の方々については、一定の障害があることが該当条件となりますが、本人の意思により75歳になられるまでは後期高齢者医療から脱退することも可能となっております。

続きまして、次の表でございます。保険料の収納状況ですが、特別徴収分については、収入済額が1億9,307万2,000円で、徴収率は100%であります。普通徴収については、収入済額が8,096万3,000円で、徴収率は97.9%であります。したがって、全体で徴収率は99.4%となるものであります。

簡単ではございますが、以上で平成20年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の補足説明を終わります。

○委員長（神子 功） 担当課の説明が終わりました。

議案第4号について質疑がありましたらお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 今、課長、説明資料の中で65歳以上74歳以下の人は、意思で後期高齢者医療から脱退できるということでしたが、実際には何人ぐらい脱退したのですか。

それと、脱退すると何かいいことがあるんでしょうか、プラスになることが、すみません、ちょっと教えてください。

○委員長（神子 功） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（花香寛源） 回答でございますけれども、年度内に脱退された方は全部で40名となっております。

この脱退することによる利点でございますが、その方が社会保険の被扶養者であった場合には、もとの社会保険の扶養に戻られることにより、掛金が全くかからなくて済むというような利点が生ずるということでございます。

以上です。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 全然、じゃ、かからないということだね。そのようなプラスの点があったら、あれですか、該当者への周知なんかも必要ではないかと思うんですけれども、それなりの対策はとっているんですか。

○委員長（神子 功） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○**保険年金課長（花香寛源）** 周知の点で申し上げますと、厚生労働省の指示によりまして、各人に希望により撤回できる旨を記載した通知を送付するとともに、平成20年3月1日号の広報あさひにおきましても、その内容を掲載して受け付けを行ったものであります。

以上です。

（「分かりました」の声あり）

○**委員長（神子 功）** ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○**委員長（神子 功）** 質疑がないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

議案の審査は途中でありますが、ここで11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前10時56分

再開 午前11時10分

○**委員長（神子 功）** 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第5号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

高齢者福祉課長。

○**高齢者福祉課長（渡辺輝明）** それでは、決算に関する説明資料に基づきまして補足説明をいたしますので、よろしくをお願いいたします。

1 ページをお開きいただきたいと思います。

1 番の高齢者人口等につきましては、本会議においてご説明したとおりでございますので省略させていただきます。2 番以降についてご説明を申し上げます。

2 番の要介護認定者数については、年度末である平成21年3月末の状況を掲載しております。介護度が一番軽い要支援1から一番重い要介護5までのそれぞれの人数、構成割合を示しており、前年度と比較して、人数は43名が増加しておりますが、構成割合はほとんど変わりございません。

2 ページをお開きいただきたいと思います。

3 番の介護保険料については、第3期介護保険事業計画、これは平成18年から平成20年度

までのものですが、これにより定められた保険料の所得段階、年額は前年度と変更
ございません。

4番の所得段階別、第1号被保険者数は、所得段階別の人数割合を示しており、前年度と
比較して人数は303人増加、その内訳として所得の高い5段階、6段階の割合が全体の59%
を占めているのが特徴でございます。構成割合はほとんど変わりございません。

5番の保険料納付状況については、本会議においてご説明したので省略させていただき、
3ページの6番、保険給付費のサービス別支出状況について、決算書にも細かく記載されて
おりますが、この表のほうの方が分かりやすいと思いますので、こちらを使用して特徴的なこと
をご説明いたします。

まず、居宅サービスでございますが、①訪問介護から⑭の居宅介護サービス計画給付費で、
在宅にしながら受けられるサービスでございます。

サービスの利用状況を給付費の支出額が多い順に申し上げますと、一番多いのが⑥の通所
介護、これは介護施設で食事や入浴など、日常生活の支援を受ける日帰りサービスで、いわ
ゆるデイサービスと呼ばれているもので、これが最も利用がされております。

次いで、①の訪問介護、ホームヘルパーが居宅を訪問し、身体介護や生活援助を行うサー
ビスでございます。

3番目が⑦の通所リハビリテーションで、デイサービスと同様に通いながらリハビリテー
ションを受けるサービスです。

居宅サービスを受ける月平均利用者数は1,178人、1人当たりの年間給付額は112万4,000
円となっております。

続きまして、地域密着型サービスは、住みなれた地域で生活を続けるために、地域の特性
に応じたサービスが提供されるサービスでございます。

②の認知症対応型共同生活介護は、認知症対応のグループホームです。この月平均利用者
数は35人で1人当たりの年間給付額は278万7,000円となっております。

③の地域密着型介護老人福祉施設は、旭市民を対象とした特別養護老人ホームでございま
す。この月平均利用者数は16人、1人当たりの年間給付額は269万円となっております。

最後に、施設サービスは特別養護老人ホーム、老人保健施設、療養病床と言われる介護三
施設に入所している利用者が受けるサービスでございます。

①の介護老人福祉施設、いわゆる特別養護老人ホームの月平均利用者数は323人、1人当
たりの年間給付額は282万4,000円となっております。

②の介護老人保健施設の月平均利用者数は196人、1人当たりの年間給付額は291万7,000円となっております。

③の介護療養型医療施設の月平均利用者数は5人で、1人当たりの年間給付額は386万8,000円となっております。

最後に、保険給付額の合計金額が31億4,184万446円となり、前年度と比較しますと5.6%の伸びとなっております。

続きまして、決算書についてご説明を申し上げます。

給付費につきましては、補足説明で申し上げましたので、地域支援事業についてご説明をいたします。485ページをお開きください。

備考欄1番、特定高齢者把握事業は、近い将来、介護保険の認定者となるような方々を把握し、介護予防につながるための事業で、平成20年度において643人が特定高齢者に認定されました。

続きまして、489ページをお願いいたします。

地域支援事業の中の任意事業であります。備考欄1番、家族介護用品給付事業は、寝たきりや認知症状がある高齢者で、常時失禁状態にある方に紙おむつを支給する事業です。平成20年度においては486名の方が利用されております。

次に、491ページをお願いいたします。

備考欄3番、配食サービス事業は、ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯で調理の困難な方の自宅に昼食を配布しながら安否確認を行う事業で、平成20年度は163名の方が利用されております。

以上でございます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。

議案第5号について質疑がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

島田和雄委員。

○委員（島田和雄） それでは、ただいま説明していただきました配食サービス事業ですか、老人の方の安否の確認も兼ねて配食サービスを行っているということですが、そういったことで、いろんな異常が発見できたとか、そういったようなことがあったかどうか伺います。

○委員長（神子 功） 島田和雄委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） 私、この4月から担当になりまして、ちょうどこの約半年の中で2件ございました。1件は発見するのが翌日になってしまった件もあるんですけども、もう一件は、ちょうど発見されまして、それで救急等をやったんですけども、残念ながらお亡くなりになったというケースがありまして、私のこの半年の中では2件でございます。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

林七巳委員。

○委員（林 七巳） 今、入所希望で待っている方がどのくらいいるのか、分かればお願いします。

○委員長（神子 功） 林七巳委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） 今、毎月これは前後いたします。ご不幸なことですが、希望されていてお亡くなりになっている方もいまして、ちょっと私の記憶の中では約300名弱の方がいらっしゃると思います。これは当然、前後いたします。

その中で、一番大変なのは要介護4ないし5の、俗に言う寝たきりの方のような形だと思えます。その方については、約10名弱の方が在宅でいらっしゃいます。それ以外の方は老人保健施設、あるいは老人ホームに入所されている、そういう方になっておりますけれども、その約10名弱の方については、大変だと私のほうで感じているんですけども、当然そういう方の中で、特にひとり暮らし、あるいは高齢者世帯、こういう方になりますと、それぞれの施設の収容の判定委員会ですね、判定のランクは高いんですけども、一つとしては、今お聞きしますと、経済的な事由によりまして、きちんとした形での部分は難しい、ご自身のほうで、あるいはご家族のほうでご辞退される分もございまして、なかなか一つとして難しい。

それで付け加えますと、旭市民を対象とした地域密着型特別養護老人ホームですか、こちらのほう、東風荘の松里館、これが16床ございます。それからやすらぎ園の第二やすらぎ園、これは29床ございます。ただ、こちらのほうはご存じのようにユニット型という、1人の方の形なものですから、費用のほうは15万円ないし16万円とかという金額になりますと、なかなか経済的な負担、それで介護のこれが一番の問題だと思いますけれども、いつまで続くのか、学校ですと3年で終了とかございますけれども、介護の場合は先が分かりませんが、やはり高齢者の方ですと、なかなか手持ちの資金等の問題等で、すぐには希望はあるだけ

れども入れないとか、そういうような問題がございます。先ほどの関係で、そういう形でご理解をいただければと思います。よろしく願いいたします。

○委員長（神子 功） 林委員、よろしいですか、詳しい数字は。

林委員。

○委員（林 七巳） それからもう一点、やすらぎ園の介護マンションですか、それから中央病院のこっこのケアハウスのところにある何というんですか、あれは。

（「ケアハウス」の声あり）

○委員（林 七巳） ケアハウスですか、そこに結局、高額になるから、地元の方はあまり入らないで、遠くから来て、そこで容体が悪くなると、そっちへ流れていくというような話も聞いていたもので、だから地元の方がなかなか入れないという理由がちょっとあるというような話を聞いたんですけれども、その辺はどう把握しているのでしょうか。

○委員長（神子 功） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） ケアハウスの関係でございますが、東総園、あるいはやすらぎ園、設置されていまして、確かにケアハウスの場合だと、まだ介護保険の認定を受けない、ご自分で自立して生活できる方が入る形になっております。そういう中で、旭市の場合ですと三世代同居といいたいでしょうか、そういう方が結構多いございますので、まだご本人様の自宅にいたいという希望があるのかなというのが私のほうの率直な感想でございます。

それで、高齢者のみの世帯でご入居なさっている方もいらっしゃいますけれども、やはり先ほど申し上げましたように、ケアハウスの場合でも、ご自宅ですと部屋代、あるいは食事といいたいでしょうか、食費はご自宅でも施設でも同じようにかかるわけでしょうけれども、でもご自宅ですと、それなりの部分がありますので、やっぱりそういう面でなかなか地元の方がというのはあろうかと思えます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） ありませんか。

平野委員。

○委員（平野忠作） それではお聞きします。

決算書の491ページ、備考欄の6番の住宅改修費助成事業の20番の扶助費、住宅改修費助成金ですか、これは何件くらい申請があって、何件くらい着工されたのか。あるいは詳しい内容、だいたい一般的には手すりとかバリアフリーとかだったと思いますけれども、そこら

辺をちょっとご説明をよろしく申し上げます。

○委員長（神子 功） 平野委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） お答えいたします。

平成20年度の住宅改修の関係でございますが二通りございます。一つとしては介護保険のほうで助成をする部分と、それからもう一つは介護保険でまだ認定を受けていない方で、要するに一般会計のほうでの助成のほうの部分がございます。

そちらのほうを別々にお答えをいたしますと、まず一般会計のほうでございますけれども、こちらのほうが申請が10件、助成額が119万6,900円でございます。主な内容としましては手すり、あるいは床の段差の解消、トイレの改修等でございます。

それからあと、介護保険のほうの関係でございますが、こちらのほうは129件ございます。給付金額が1,199万5,177円となっております。内容は先ほどとほぼ同様な部分になります。よろしく申し上げます。

○委員長（神子 功） 平野委員。

○委員（平野忠作） 内容等については、よく分かりました。

これでまた申請待ちとか、あるいは全部の方が申請と同時にこれを執行なされるんでしょうか、それはどのくらいの待ちの度合いとか、そこら辺が分かれば、もうちょっと、分からなかったら、また後でお知らせ願えればそれで結構ですので、よろしく申し上げます。

○委員長（神子 功） 平野委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） 先ほどのご答弁で、1点言い間違いまして、先ほどの20件のほうの関係、最初に申し上げた住宅改修ですが、これは一般会計ではなくて介護の任意事業でございますので訂正させていただきます。

それから、今の待ち等の関係でございますけれども、基本的には介護認定をされて、その後、申請されれば、うちのほうの認定がおりないと、当然、改修にできませんけれども、おむね認定されておれば、1か月程度ですべて大丈夫なのかなと思います。ただ、当然、建設事業者との打ち合わせ等がございますので、その辺はご考慮いただければと思います。

以上でございます。

（「ありがとうございました」の声あり）

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

嶋田哲純委員。

○委員（嶋田哲純） 今の平野委員の質問の中で、住宅の改修費は一人頭の最高額はどのくらいの補助があるのか、お願いします。

○委員長（神子 功） 嶋田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） 1件当たり最高が20万円までが対象で、介護保険から支給されるのは、そのうちの9割、18万円でございます。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

佐久間茂樹委員。

○委員（佐久間茂樹） どうもご苦労さまです。

保険制度、かなり複雑で大変だと思います。私も分からないので、ちょっと教えていただきたいと思います。

まず、この説明書の2ページ、特別徴収で5億円、普通徴収で5,800万円、収入未済額が970万円で、過年度分の不納欠損が682万円で収入未済が910万円になっています。多分、当然特別徴収はゼロですよ。それで普通徴収は、今、上に1から6段階くらいありますけれども、要するに納められなかった人は、どういった人なのか。それと一般会計の145ページ、ここに介護扶助費というのがありますよね、1,591万円ですか、先ほど住宅扶助費というのがありましたけれども、平野委員の話で、住宅扶助費が119万円出ていますけれども、こっちでは3,591万円出ています。この一般会計のやつは、介護保険のほうに多分お金は入っていないと思うんですよ。別立てでやっているんだろと思うんですけども、その辺の確認と、今の145ページの介護扶助費というのは、この中で使われているとすれば、どういふふうに使われているのか、その辺をちょっと教えていただきたい。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） まず1点目の保険料の納付状況の中で、収入未済とかの段階が、介護保険料の段階でいえば、どのくらいの段階が多いのかというご質問でございますが、介護は平成20年度ですと6段階、そのうち基準段階が第4段階で、あと1から3までが低所得者層といたしまして、そちらとなっています。特に第1段階が生活保護の受給者等で、あと第2段階が世帯で皆さん、非課税、それでご本人も年金収入額等、あるいは合計所得が

80万円以下と、こうなっておりまして、課税対象が65歳以上の方でございまして、多いのはこの1段階、2段階、3段階の中が大半を占めております。こちらのほうは、どうしても今申しあげましたように、年金のほうも受給されていない方もいらっしゃいます。そういう関係で、そういう状況でございます。

それから、145ページの扶助費の関係で、こちらは私どもではなくて社会福祉課の関係で、私、知っている範囲内で申し上げますと、この介護扶助費のほうは、65歳以上の方の年金保険料のほうを、こちらのほうで私ども介護保険のほうに支払っていただいていると、多分それで間違いないと思いますけれども、詳細のほうは、もしあれでしたら、また確認してまいります。

それと、生保の方が介護のサービスを利用したときの利用分ということで、こちらのほうの金額になっております。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 特に法律で決められて、多少でもお金を納めないと、ひょっとしたら罪人扱いみたいな扱いになってしまうのかもしれないんで、できれば年金なし、第1段階、この辺の過年度分、あるいは不納欠損、どうしても納められないというところは、何らかの形で手当てをできないのかなと。今そう思ったんですけれども、145ページの介護扶助費が、そちらのほうに幾らか使われているということでよろしいんですか、違うんですか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） 介護保険料を納められない方については減免制度がございます。一つとして、生活が生活保護とほぼ同程度の方については、減免制度の中で、そういう対応をしております。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） そうすると、しつこくて申し訳ないんですけれども、145ページの扶助費と、こちら介護保険とはほとんど連絡ないんですか、連絡はとっているんですか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（渡辺輝明） 先ほど申しあげました145ページの介護扶助費のほうで、生

保の人が介護サービスを利用した場合に、ここでお支払いいただいていると。

(「生活保護の」の声あり)

○高齢者福祉課長(渡辺輝明) 生活保護でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長(神子 功) 佐久間委員。

○委員(佐久間茂樹) この生活扶助費という、生活保護を受けている方の税金というか保険料は、だいたいこれで幾らか分か出してもらえると、そういうスタイルにはなっていない…。

○委員長(神子 功) 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長(渡辺輝明) 生活保護の方の介護保険料のほうは、保護費の中でいただいております。ですから、ご本人が負担するということはございません。

○委員長(神子 功) ほかに質疑はありませんか。

日下委員。

○委員(日下昭治) これは保険料ですから2年で時効になっちゃいますよね。そうしますと、例えばこの保険料、2ページの5番にある収入未済額約910万円ちょっとありますけれども、そうしますと、それがだいたい倍くらいが不納欠損になるとして、調定をして、その中で多分六百何万円の不納欠損ですので、この2年分の、3年目から不納欠損されると思いますけれども、だいたいこのくらいの金額が不納欠損で出てきてしまうのかな、あるいは時効停止でも一部はあるかなと思いますけれども、その辺はどうなんでしょうか。

○委員長(神子 功) 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長(渡辺輝明) 不納欠損の額でございますが、平成19年度もこのくらい、これより少なかったんですけども、それでこの収入未済額のほうは、一部分納していただいている分については時効を停止して、いただいております。ただ、実際問題として、無理解の方とかいらっしゃいますので、今、補足説明でも申し上げましたように、介護保険の65歳以上の対象者の方が増えています、1号被保険者が。ですから、どうしてもこの額は年々増えていくのかな。今年滞納した方が、来年もと、どうしてもそういう形が、私どもでは臨戸徴収等はやっているんですけども、そういう形は継続してしまうのかなということがございます。

○委員長(神子 功) ほかに質疑はありませんか。

(発言する人なし)

○委員長(神子 功) 特にないようですので、議案第5号の質疑を終わります。

それでは、議案第2号から議案第5号までの担当課は、ここで退席してください。

しばらく休憩いたします。委員の皆様はそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前11時40分

再開 午前11時42分

○委員長(神子 功) 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第6号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

下水道課長。

○下水道課長(佐藤邦雄) 下水道課のほうから補足説明をさせていただきます。

議案第6号、旭市下水道事業特別会計の決算の認定につきましては、お手元にお配りしてあります説明資料、A4、3枚つづりの資料により補足説明をさせていただきます。

まず表紙をめくっていただきまして、1ページ目をご覧ください。

1ページ目は下水道建設事業の概要でございます。事業費としましては2億3,158万3,000円でございます。内容としましては、二袋地区の2.6ヘクタール、これは国道126号線、袋の交差点から同じくマツモトキヨシの交差点までの区間、カワカ金物店の西隣の県道旭小見川線に面した区域の面整備工事、また平成19年度に面整備工事を行った箇所、東町・網戸上宿の地区の一部の舗装復旧工事、さらに浄化センター増設工事のための横断ポンプ等の土木建築工事を実施したものであります。

次に、2ページ目をご覧ください。

下水道状況一覧の1番目は、下水道の整備状況でございます。平成20年度の普及率は、行政区域内人口6万9,226人に対して処理区域内の人口5,454人で7.9%、前年度と同率でございます。また水洗化率につきましては、処理区域内人口5,454人に対しまして供用人口が3,213人でございますので58.9%、これは前年2.7%ポイント増となっております。

2番目は受益者負担金でございます。平成20年度の受益者負担金の納入状況は、調定額6,830万900円に対しまして収入済額が3,688万4,200円で収納率は54%でございます。なお、

調定額には現年度分と合わせて過年度分が含まれておりまして、現年度分は3,447万7,900円、過年度分、これは滞納分ということでございますが3,382万3,000円が含まれております。収入済額の現年分につきましては3,035万600円、収納率としましては88.0%でございます。過年度分滞納分につきましては653万3,600円ということで収納率は19.3%でございます。

平成20年度の不納欠損につきましては73万円となっております。これは平成12年度に賦課しました4年目分、平成13年度に賦課しました3年目分、平成14年度に賦課しました2年目分、これらの一部分が不納欠損となっているものでございます。

3番目は使用料収入でございます。平成20年度の使用料の収入状況は、調定額5,713万9,967円に対しまして収入済額が5,435万797円で、収納率は95.1%でございます。なお、調定額には現年度分として5,403万8,961円、過年度分、滞納分でございますが310万1,006円となっております。収入済の現年分につきましては5,352万7,133円、収納率としましては99.1%、過年度分につきましては82万3,064円ということで、収納率は26.6%でございます。なお、平成20年度の使用料の不納欠損額は12万8,380円となっております。

4番目は、水洗便所他改造資金補助金と利子補給金の状況でございます。水洗便所他改造資金補助金は、20件で73万円、利子補給金は申請がなく、ゼロでありました。

補足説明は、以上でございます。

○委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。

議案第6号について質疑がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。よろしいですか。

高木武雄委員。

○委員（高木武雄） その説明資料でちょっとお伺いしますけれども、数字が小さくてちょっと見えないんですけれども、2ページ目なんですけれども、数字が見えないから言葉でお願いいたします。

今、使用可能ですか、処理可能の面積の中に入っている家がありますよね、この家が今のくらい使用されているのか、58.9%ということですか、これは水洗化率か。何か使用可能な人口というか戸数、今現在使っている戸数、それでその差があれば、こういう方々をどのような形で使用、参加してもらおうか、現在どのような方法をとられているのか。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

下水道課長。

○下水道課長（佐藤邦雄） 使用可能件数につきましては、この表にはございませんが、いわ

ゆる処理区域面積、整備済み面積が156.3ヘクタールの中に、使用可能人口ということで処理区域内人口5,454人、普及率としましては7.9%の使用可能な人口という形になっております。また、その使用可能な人口に対しまして、水洗使用人口でございますが3,213名、率でいきますと水洗化率58.9%というふうな進捗になっております。

それで今後、使用可能区域の方に対しまして、どういう形で水洗化率を上げていくかということでございますが、まずこれは個別で、使用対象者に理解していただくように説明に上がっていくのが一番最善な方法かと思えます。また、接続工事の指定工事店というのがございます。その工事店ではないと接続工事ができません。そういうことで、地元に通じている指定工事店に、今年は4月下旬に浄化センターに集まっていただきまして、PRをお願いしたような状況でございます。

また、下水道に関しまして、下水道の日ということで9月10日を定められているわけなんです。市といたしましても、ホームページでそこら辺のところの下水道の重要性等々を、そのホームページに掲載させていただきましてPRに努めているところでございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 高木委員。

○委員（高木武雄） PRの方法を頑張ってやっつけていただいていること、よく分かりました。

しかしながら、この未加入の人たちの、どういう原因が主に考えられるのか、その辺、分かればお願いします。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

下水道課長。

○下水道課長（佐藤邦雄） 既に整備区域内に浄化槽を、いわゆる合併浄化槽、そういうものを設置しているお方が結構いらっしゃいます。その方につきましては、その浄化槽がいわゆる耐用年数といいましょうか、使用不能になるという部分で、なかなか、まだいわゆる二重投資という部分になっちゃいますので、そこら辺のところを、いわゆる合併浄化槽というものが老朽化して使用不能になったときに下水道に転換するというような部分で、ちょっとそこら辺につきましてはジレンマを感じる部分がございます。そういう方は、なかなか一度投資したものを御破算にして、じゃ、下水道に加入するということは、なかなか経済的に難しい部分がございます。そういうのが一つの事例ということでございます。

○委員長（神子 功） 高木委員。

○委員（高木武雄） 原因、そういうことで分かりました。これはここで論議する議論ではな

と思いますけれども、もろもろ、そういうまだ60%も入っていない、そういう事業で、市から4億円近い毎年の繰出金があるということがございます。そうした中で、これを今後どのように解消していくのか。もう事業ストップ、まあストップするのも大きな問題ですけれども、下水道課としては、これをどのように考え、今後進むべきなのか、その辺をお聞きします。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

下水道課長。

○下水道課長（佐藤邦雄） やはり経営改善ということの質問ということだと私解釈しているんですが、当然ながら、収入、支出ということの中で、収入をいかに増やすか、支出はいかに減らすか、その両面で対応していかなくちゃいけないと思うんです。その中で収入につきましては、先ほど委員からご質問があった、下水道料金をいかに増やすか、いわゆる水洗化率を上げていくかということのちょっと地道な作業ですが、1軒1軒、戸別に当たっていくしかないかなというようなことを思っております。

また、支出の件につきましては、これは私の口からはなかなか言えないんですが、行政改革の、ちょっと言葉は忘れちゃいましたが、そこら辺のところは人件費とか、そういうものをいかに合理的に減らしていくかというのが目の前の、下水道課としてできるような当面の対策ではないかというようなことでございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 高木委員、いいですか。

ほかに質疑ありませんか。

日下委員。

○委員（日下昭治） 受益者負担の中で、平成17年度から不納欠損出てきておりますね。平成17年度は465万5,200円ですか、それは多分平成12年度の817万円あったうちの収入として入った残りがこれで不納欠損されたと思います。そういったものが年々翌年、またここへ来て、平成20年度はかなり減っているわけですが、これはまだ73万円だから、そのころから比較するとかなり減っているわけです。そういったものは、何かあれだと思いますけれども、未済額もかなり年々減ってきて、調定額というのはあれですか、平成16年ですけれども、平成16年ということは4年目ですか、そうしますと5年になるんですか、そして5年過ぎたのが時効になるわけですから、そういうのは減るのは当然不納欠損されるから、未済額は減ってくるということだろうと思いますけれども、その辺はどういった形で、徴収がよくなった

のかということ、とても考えられないと思いますけれども、その辺の73万円で不納欠損が済んだ何かがあるのかなと思いますけれども、その辺、使用料は増えているんですよね、そういう形で、その受益者負担がその辺はどういう背景があるのかなということもお願いできればと思います。

それと、先ほど高木委員のほうで、一般会計から4億円余り毎年繰り出していると。そして過日の一般質問の中で、私も見直しというのはどういう見直しが見直しなのかなということも若干質問させていただいたわけでごさいます、それらがこの補助金が返還しなければならないという話の中で、補助金に関する法律もとってもらったわけでごさいますけれども、やはり受益者に関するものはかなり少ないわけでごさいますので、その辺、繰り出しが今後毎年続く場合には、やはり市の一般会計に負担がかかるものがありますので、その辺も含めて、それは一応要望ですけれども、ぜひ議論していただきたいなと、そういうことをお願いしたいと思います。

それで今、増えている原因だけちょっとお願いします。

○委員長（神子 功） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

下水道課長。

○下水道課長（佐藤邦雄） 毎年、年度当初に不納欠損見込額というのを算出するような形で、まず金額を定めます。それで平成20年度当初の不納欠損見込額が340万710円ということの中で、いわゆる実績といたしまして、いわゆる不納欠損からうちの職員が努力いたしまして収入を得たという部分で267万7,100円でごさいます。そうした残りが73万円という不納欠損でごさいます。これにつきましては、表を見ていただければ分かるんですが、平成18年度が収納率が40.8%、そして平成20年度が54.0%ということで、かなり8ポイントほど伸びています。これにつきましては、先ほど言いましたように、うちの職員の努力の結果だと思えます。

それで、なぜこれは267万7,100円になったかといいますと、まず、これにつきましては当然ながらうちの職員が戸別訪問いたしまして、協力を得るような形で何度も何度も対象者に交渉している中で、どうしても理解が得られない、そして、しかしながら時間を待つと5年の時効が来てしまうということで、事情やむを得ないということの中で、収入済者とのバランスを考えた中で、公正公平という観点から差し押さえというような形で処理させていただいたというのが3件ございます。金額といたしましては205万8,000円強というような形で処理させていただきました。ここら辺が一番大きな要因ではないかということでございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 日下委員。

○委員（日下昭治） 職員の努力によって不納欠損額も極力少なくて済んだという理解で、それは職員の努力は大変だったと思います。そういった中で、下水道関係では、そういう形が出ている。しかし、市税はそうでなくて、大きな市税のほうでは、もっとこれは下水道は関係ないんですけれども、こういったことがありますので、ぜひ、その辺、税務課長、ぜひ市税のほうで極力そういう努力をしていっていただくように要望したいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（神子 功） 特にないようですので、議案第6号の質疑を終わります。

続いて、議案第7号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

農水産課長。

○農水産課長（林 清明） それでは、議案第7号、旭市農業集落排水事業特別会計について補足説明をさせていただきます。

農業集落排水事業は、江ヶ崎地区と琴田地区の2か所で実施しており、江ヶ崎地区は平成10年、供用開始から10年、琴田地区は平成13年、供用開始から7年が経過しております。農村生活環境の改善、農業用排水及び公共用水域の水質保全が図られていると考えております。

説明資料をご覧いただきたいと思います。

資料の1ページ、これは排水施設維持管理費関係の概要であります。

施設の機能維持費としまして、平成20年度は江ヶ崎地区排水施設維持管理費915万7,192円、琴田地区排水施設維持管理費620万5,918円となっております。

支出の主なものは、どちらの地区も需用費として電気、水道料金、さらには修繕料、これは水中ポンプなどの部品の交換であります。それから維持管理の委託料となっております。

次の2ページ、農業集落排水事業の状況一覧でございます。

1の普及状況は、平成20年度の全体の普及率は処理区域内人口2,157人に対しまして使用人口1,501人、69.6%となっております。

2の受益者分担金でございますが、平成20年度の収納状況は、江ヶ崎地区、調定額317万8,000円に対しまして、収入済額84万円で、収納率は26.4%であります。

次に、3の使用料収入ですが、平成20年度の収納状況は、江ヶ崎地区で調定額1,036万

4,707円に対し、収入済額1,019万6,707円で、収納率は98.4%、琴田地区で調定額435万2,827円に対して収入済額433万5,607円となっておりまして、収納率は99.6%であります。

この事業の普及率は、年々少しずつではありますが伸びておりまして、本年も8月末現在で江ヶ崎地区が72.7%、琴田地区が64.3%、2地区の平均で70.0%となりまして、若干ではありますが伸びております。

しかしながら、まだまだ普及率低い状況でありますので、経営の安定を図るためにも普及率の向上が課題であると考えております。そんなことから、今後もさらなる普及率の向上を目指して、地元維持管理組合とともに推進活動の強化に努めてまいりますので、場面によっては委員の皆様のご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ですが、補足説明を終わらせていただきます。

○委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。

議案第7号について質疑がありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（発言する人なし）

○委員長（神子 功） 特にないようですので、議案第7号の質疑を終わります。

それでは、議案第6号と議案第7号の担当課は、ここで退席してください。

議案の審査は途中でありますが、ここで午後1時10分まで休憩いたします。

休憩 午後 零時 5分

再開 午後 1時10分

○委員長（神子 功） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

ここで9月11日の議案第1号の質疑の中で、旭中央病院への繰出金の内容についての質疑がございました。この件につきましては、担当課より一覧表にまとめた資料をお手元に配布してありますので、委員の皆さんにおかれましては、よろしくお願いしたいと思います。

それでは続いて、議案第8号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） それでは、旭市水道事業会計決算につきまして、本会議で補足しました以外のことを、ここで補足させていただきます。

最初に、決算書の14ページをお開き願いたいと思います。

ここでは建設工事の概況ということで、契約金額700万円以上のものということで5点ほど事業が載せてございます。そのうちの上の三つの事業、一番上が三川地先配水区域変更に伴う配水管布設工事、延長で1,314.7メートル、それと次の入野地先配水区域変更に伴う配水管布設工事、それと三つ目の三川地先緊急応援連絡管の布設工事、この3本の工事ですが、それぞれ事業費等につきましては記載のとおりでございますが、合併特例債を使った事業ということで、ほかの今までの水道事業で行っている企業債だけの事業とはちょっと違ってきます。この3事業につきましては、2分の1、これは合併特例債が対象になりまして、これを一般会計のほうで合併特例債として起こしていただいています。その起こしてもらった合併特例債を水道課のほうでは出資金ということで、詳細につきましては2ページのほうに載っておりますが、総額で3,780万円、これを出資金としていただいています。残りの2分の1につきましては、ほかの事業と同様に企業債という形で企業債を起こしまして行っている事業ということで変わってまいりましたので、特に説明させていただきました。

続きまして、16ページをお願いしたいと思います。

ここからは（1）の業務量ということで、前年度と比較しまして、主な水道事業の使用について計上してございます。

まず給水人口ですが、5万6,182人ということで、前年度比較569人、101.0%、若干の増。給水件数ですが1万8,470件、これも比較ですが172件の0.9%の増ということです。

それから、1行飛ばしまして、給水内訳というのがございます。有収水量ということで、いわゆる有収率ですが、括弧書き、当年度97.6%ということです。これにつきましては、ちなみに5万から10万人程度の市町村と比較いたしますと、全国平均では90.1%ということで有収率がかなり高くなってございます。

それから無収水量ということで2.4%ほどあります。これの主なものにつきましては、漏水、それから事業用として水道事業をやっていく上で、どうしても洗浄したりとかということで、収益につながらない水を洗浄のために使ったりします。それからその他としまして、大きなものについては消防用としてございます。それが主なものということになります。

続きまして17ページ、これは事業収入に関する事項ということになります。やはり大きなものが載っておりますが、給水収益ということで、当年度と前年度を比較いたしますと、

一番右側、マイナス269万8,797円ということで99.8%、若干給水収益としては減っています。これにつきましては先ほど給水人口、給水件数、微増というふうにお話ししましたにもかかわらず、給水収益としては減っているということになりますと、やはり節水意識の高揚ということ、並びに住宅用の機器等が節水型というようなものが増えてきて、その影響かなというふうに考えています。

続きまして、受託工事収益ですが、決算額は記載のとおりですが、これは下水道工事の切廻し等による受託工事ということになります。

その次のその他営業収益、これにつきましては他会計からの負担金、主なものとしましては消火栓の維持管理費用を一般会計からいただいています。

その次が営業外収益ということですが、受取利息及び配当金、これは有価証券、現金、預金の有効利用ということで、短期国債、2か月から3か月ぐらいのものを3回ほど運用しています。その利息が69万1,300円。

次の他会計補助金、この他会計といいますのは一般会計です。これは高料金対策補助ということで、決算額は7,007万6,000円。

その次に補助金ということで、これは国・県からの補助金、大きなものにつきましては県からいただいている高料金対策補助、一般会計からもらっている7,000万円に対していただいているものです。

それから、合計で一番下の16億7,577万6,606円ということになります。

続きまして、18ページをお願いします。

事業費に関する事項ということで、決算額は記載のとおりですが、簡単に性質というか目的だけ説明したいと思います。

最初に、原水及び浄水費、これは企業団からの受水費ということになります。

続きまして、配水及び給水費といいますのは、人件費ですとか修繕費、それから委託費ということですが。

受託工事費は、先ほどもお話ししましたように、下水道の切廻し。

総係費というのは、管理に関するほうの人件費ですとか委託費、それから賃借料。

減価償却は、文字どおり減価償却。

資産減耗費というのは、除却分です。

営業外費用としまして、1億5,865万3,708円。

過年度損益修正損というのは、主なものは不納欠損ということになります。

続きまして、最後のほうになります。28ページ、企業債の明細書ということで、平成20年度末の水道事業会計で今、抱えています企業債の明細ということになります。初めて新規事業ということで行ったのが、借り換えということをやっています。ペナルティーなしの借り換えということで、政府資金のほうで、通常は一括で返済しますということになりますと、後のペナルティー分を払ってからの返還ということになるんですが、国のほうでは高い利率のものに関して、ペナルティーなしで一括返還、借り換えしてもいいですよというようなことが許可されました。したがって、平成20年度でやったものが、左側の許可年度というのを見ていただきたいんですが、57という数字、昭和57年で4本ほど借りてありますけれども、その一番上、借入額で4億円、これが未償還残高ゼロというふうになっていると思います。これを借り換えしています。それから2本目が昭和58年度の三つ借りていますが、一番下の三つ目、5億2,000万円、これもゼロになっています。それから昭和59年度の一番下三つ目、政府資金6億2,400万円、これも借り換えした。それから昭和60年度は1本だけ4億2,000万円になっています。この4本を平成20年度に借り換えしまして、政府資金を全部一括返済しまして、その借りた借り換の元金が下から2行目、平成20年度の縁故資金とあります。借り換した金額が7億7,450万円、これを千葉銀行から借り入れしまして、先ほど申し上げました4本の起債を一括償還しています。この7億7,450万円の利息ですが、0.639となりまして、4年間で返済するというのを初めて行っています。

これによりまして利息の軽減ですが1億6,860万6,634円という利息の軽減が図られることになります。

最後に合計ですが、末の起債残高24億6,315万9,881円というのが平成20年度末の企業債の残高ということになります。

以上で補足のほうを終わらせていただきます。

○委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。

議案第8号について質疑がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません、ちょっとかなり分からなくて、特に一番上の金額、多分消費税の関係だと思うんですけども、この内訳と、そのかがみの金額がちょっと合わない、いまだに合わないんで教えてもらいたいと思うんですが、最初に、ちょっと聞いちゃいます。幾つかあるんで、1点目、2回ぐらいになってもいいですかね、すみません。

23ページで、この配水及び給水費、予算では2億2,000万円ぐらいだったですか、約5,000万円ぐらい減っていると思うんですけども、決算のほうは。それで旅費以下、明細は、たしか予算書にはないと思うんです。それで約5,000万円減っているんですけども、どの辺が下がったのかなと、一つには。

それから受託工事費、予算では1,500万円、一応870万円になっています、700万円ほど減っています。予算と実際とは違うのかもしれないんですけども。

それから総係費、24ページになりますけれども、給料、手当、その辺は変わっていないんですけども、これもやっぱり予算に明細がなかったんで、被服費とか以下その辺でどの辺がその1,200万円下がっているのかなと。

あとは資産減耗、これは当初1万円ぐらいですね、91万円になっていますので、それがどのくらいなのかなと。

1回切ってもいいですか。

○委員長（神子 功） いいですよ。

○委員（佐久間茂樹） すみません、取りあえずその辺。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） ちょっと内容が細かいものですから、手元に資料がなくて申し訳ありません。

配水及び給水費のほうで一番大きく予算と違うのが修繕料ということであります。これはだいたい予算と比べて執行のほう下がっているということです。

総係費のほうでは委託料、これが常陽のほうにお客様センターということで委託をしています。その委託料が入札等によりだいたい低くなったということになります。

それから、表のほうと使っている表によって数字が違っているという話ですが、おっしゃるとおり消費税込みか込みじゃないか……。

（「消費税……」の声あり）

○水道課長（横山秀喜） はい。

○委員長（神子 功） 資産減耗費の関係、お願いします。

○水道課長（横山秀喜） 資産減耗費のほうは、除却ですので、科目を設定して当初のほうはあるという程度のもので、実際には91万3,852円、これは公用車を2台除却しています。それと配水管の布設替え等で、配水管の除却がございます。その金額です。

それと前後しちゃって申し訳ありません。受託工事費のほうですが、これは予算より少ないというのは、下水道のほうの切廻しですので、そのときの発生したものということで、こちらは、どちらかという受け身の形になりますので、それで予算と違ってきているということになります。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません、そうしますと、委託料で約1,200万円下がったというところですかね。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） ほかにも細かいものを入れればあるんですが、主な大きなものというのはそこになります。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません、ちょっとこれはあまり細かく聞いてもしょうがないとは思ったんですけども、ただ、予算書にないもので、これは決算審査なので、できれば予算書にもこういう明細をつけてもらって、予算と比較できるような形で今後お願いできたらいいなと思って、あえて聞かせていただいたんです。かなり見にくいものですから。

それとすみません、今の事業収益16億7,500万円というのは、これは当初予算から見て8,000万円ほど減っているんですが、これがかがみのほうの1ページの、さっきの話に戻りますけれども、17億5,149万5,617円ですか、これは右側に七千五百九十何万かの消費税とあるんですけれども、これを引くんですか、この数字が、まずどこから来ているのかよく分からないんですよ。17億5,149万5,617円というのは、どこを見れば分かるんでしょうか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 決算額の17億5,149万5,617円、1ページですね、これから右側の消費税、これを引くと21ページのほうの事業収益の16億7,577万6,605円になります。

（「数字が合わないじゃないの……」の声あり）

○水道課長（横山秀喜） すみません、細かい話になりますけれども、2項の営業外収益のほうの……

（「2項、何ページですか」声あり）

○水道課長（横山秀喜） 1ページの営業外収益、これのほうの消費税の振り替えが若干ありまして、それが19万7,772円ほどあるんですけれども、それを振り替えていますので、その分だけ合ってこなくなります。

（「よく分からないんです」の声あり）

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 私もちょうと何かよく分からないんですけれども、ちょっと整理してもらいたい。もう1回、丁寧にお願ひできませんか。

まず、営業外収益は1億3,800万円だったんでしょ。これは消費税、右側に9,259円とありますけれども、差し引きますと1億3,946万9,879円で、左側に合わないですよ。

（発言する人あり）

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ちょっと合わないような気がするんですけれども、これは合いますか、この辺をちょっとうまく説明してもらいたいんですけれども、というのは内訳、17ページの合計16億7,500万円と、そのかがみの関係、もうちょっと分かりやすく、ぴったり数字的にはっきり表示してもらいたいと思うんですけれども。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） すみません、今分かりやすく式を作っていますので、出来次第、またお示ししたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（神子 功） その間に、ほかに質疑はありませんか。

島田和雄委員。

○委員（島田和雄） 今回4本ですか、繰り上げ償還ですか、されたといったような説明がありましたけれども、これらの償還をするに当たっては、最もやっぱり有利といったような考え方をして、いろいろ計算をされてやっていると、そういうことでしょうか。金利とか、もっと高いのもありますけれども、償還周期とか、そういうのを見た場合には、この4本をやるのが計算上は一番有利といったようなことだったのでしょうか。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 基本的にはそのとおりでございます。借り換えするのに、若干条件がありまして、5%以上のもので政府系資金ということなんです、額の小さいものについ

ては、借り換えしてもそんなに効果が上がらないということで、5%以上のもので額の大きいものということで平成20年度はやらせていただきました。

続いて、今年度も次の大きなものにつきまして、また借り換えをするということで、今のほうに申請をしているところでございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 島田委員。

○委員（島田和雄） 償還額の上限というのは決まっていたんですけど。この繰り上げ償還の額、上限は。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。
水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 上限というのは特にございませんが、県等を通しまして、枠配分額、枠の問題で協議して、この4本ということで決めてございます。

○委員長（神子 功） 島田委員。

○委員（島田和雄） 県との協議の結果、こういった金額が決まったということですか。こういった繰り上げ償還をやったほうが、すごくいいと思うんですけども、これが県との協議の中では上限であったと、そういうことでよろしいでしょうか。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。
水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 協議先は県並びに国の出先である千葉財務事務所と市と三者で協議してございます。このこういう金額に関して借り換えをしたいという、もちろん案を作っていくのは旭市のほうで、これでどうかという形で持っていつています。有利な借り換えということですので、引き続いて、先ほども申し上げましたとおり、次に高額なものということで、また再度、今年お願いしているということでございます。

以上です。

○委員長（神子 功） 島田委員。

○委員（島田和雄） だから、できるだけこれを見ますと、千葉銀からは0.639の利息で借りられたということですので、こういったのをもっといっぱいやったほうが、財政的にはいいんじゃないかなというふうに感じているわけなんですけれども、その辺はどうなんでしょうか。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） できる限り、そういう方向をとりたいと思っています。ただ、先ほど申し上げましたように、例えば縁故資金の返済期間は4年ということで、7億7,450万円を4年間で返すということになりますと、一度に返済していくということになりますので、内部留保資金等の状況を見ながら運営に支障のない範囲でということが、どうしても出てきますので、なるべくその方向ではいきたいとは思っていますけれども、影響を与えない範囲でということをご理解願いたいと思います。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

日下委員。

○委員（日下昭治） 一つだけちょっとお聞きしたいと思います。

支払利息及び企業債取扱諸費の中で1億5,865万幾らというのがありますよね。これは26ページにもありますし、最初のあれにもありますよね。ここにあるのは取扱諸費、要するに企業債利息の関係ですね。だから26ページの中には、ここに大きな字で書いてある、このほうが見やすい。

営業外費用、それは利息のみが金額になるんですか、元金は入っていないんですか。

（発言する人あり）

○委員（日下昭治） そうしますと二十何億ですか、これは企業債残高、24億幾ら、その利息、それと若干これは最後ですから変わっていますが、前年度のやつですから、これは違う金額を使いますが、ややそれに対する利息が、こういう形になるんですか。

（発言する人あり）

○委員（日下昭治） そうしますと、高い利率のものを早く返済すればということですが、それでもやはりごく高いのだけで、どれでもやれるということでもないということでしょう、その企業債の借り換えというか償還、その辺ちょっとお願いします。

○委員長（神子 功） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 先ほども申し上げましたとおり、借り換えの条件が幾つかありまして、5%以上の高利のものということで借り換えを進めています。

以上です。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 先ほどの消費税と営業収益の絡みですけれども、今、式が手元に来ましたので、ちょっと説明したいと思います。

まず1ページの第1款、一番上ですね、第1項の営業収益16億1,201万6,479円、ここから括弧書き、備考欄の消費税7,590万7,524円を引きます。その金額が15億3,610万8,955円になるんですが、これが21ページということになります。

それから、また1ページへ戻っていただきまして、営業外収益のほうの1億3,947万9,138円、ここから備考欄の消費税9,259円を同様に引きます。先ほど振り替えがあるということでお話ししましたがけれども、それが消費税の振り替えで19万7,772円というのを振り替えていますので、それを足します。足すとイコール1億3,966万7,651円、これが21ページの数字と合います。

今申しあげました21ページに合うという二つを合計しますと16億7,577万6,600円ということで、やっぱり21ページの合計欄と合ってくると。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） まだ能力不足なのか、ちょっとよく分からないんですが、じゃ、質問の仕方を変えさせていただきたいと思います。

まず実際に収入があったのは、17ページの合計欄16億7,577万6,606円か、一番上の17億5,149万5,617円か、実際に収入があったのはどちらですか。

同じように、実際にその支出があったのは、21ページの16億7,577万6,606円なのか、15億8,232万6,166円なのか、実際に収入あるいは支出、というのは一番上は消費税を載せているんでしょう。消費税を載せているということは、多分実際に、私、帰って水道料金の請求書を見てみたんですよ。やっぱり内税になっているんですね。だから、実際に収入があったのは17億円なのか、それともこのところが分かりにくい、申し訳ないんですけども、17ページの16億円なのか、まずその入りのほうをちょっと確認できますか。実際に収入があったのはどっちなのか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 実際の入りのという意味が、いまいちちょっと難しいかなと思うんですけども、17億5,569万7,000円、1ページ目のこの金額は、営業収益、営業外収益として確かに入っているんです、金額は。ただし、消費税は消費税で事業体、みんなそうだと思う

んですけれども、うちのほうでいただく消費税と、うちのほうで払わなくてはならない消費税、この絡みで若干、それが収入なのかと言われちゃうと、消費税は消費税で、精算はまた別なんです。仮受消費税という形でやっていますので、水道事業体は水道事業体として工事等を発注したりしていきますので、それとかいろいろ取引していますので消費税を払います。それとの預り金と払う金額との精算を毎年やっているんですけれども、具体的には前年度の売上高に対する4分の1ずつ3回に払って最終で調整するとか、そういう形はやっているんですけれども。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません、大変申し訳ないんですけれども、中央病院の決算書のほうでは、そういう疑問点はあまり出てこないんですよ、分かりやすく。ただ、今それ仮受だか何だか、ちょっと分からないんですけれども、まず実際の収入があります。その中で消費税をどういうふうに処分したかというのは、それはそれでいいと思うんですね。まずその17億円入ったんだか入らないんだかはっきりしないというのは、それもちょっとおかしな話で、お金は入っているわけですよ、もらっているわけですよ。それが幾らなのか、17億円なのか16億円なのか、その辺ははっきりできないんですか。もらったらもらった、その中で仮受の消費税、もらっていい消費税と払わなければならない消費税というのを分けてもらったほうが分かりやすいんだろうと思う。これは全然分からない、申し訳ないけれども。

○委員長（神子 功） 議案の審査は途中でありますが、ここで2時まで休憩いたします。

休憩 午後 1時49分

再開 午後 2時 0分

○委員長（神子 功） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません。じゃ、もう1回だけ確認させていただきます。

税込みでの収入が17億5,000万円、要するにかがみ書いてあるということでもいいんですかね、これで。それで内訳明細17ページ以降のほうは税抜きで処理してあるということ考えていいんでしょうか。

(「はい」の声あり)

○委員(佐久間茂樹) それで、ちょっとお願いなんですけれども、公営企業とは、こういう形で報告する決まりになっているというお話でした。正直言って3ページ、4ページ、この辺の書き方、これはずっと見てきたんですけれども、こんなにページを使わなくても1ページでも済むのかなと正直な話ね。非常に分かりにくいです。先ほど申し上げましたけれども、予算書と決算書を対比できるような形で、もしこれが役所の決まりだというのであれば、議会用として二・三ページにまとめて、皆様に分かりやすく、分かるような形で提出していただきたいと思います。要望しておしまいにします。

○委員長(神子 功) 佐久間委員の要望がございましたが、前段の消費税の関係について、もし答弁がありましたらお願いします。

佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

水道課長。

○水道課長(横山秀喜) 税の関係につきましては、佐久間委員、おっしゃるとおりです。最初のやつが現実的な収入になっています。消費税を込みで書いた表と、後段につきましては消費税抜きということで間違いございません。

それで、分かりやすい書式で作ってくれないかというご要望ですが、検討して添付資料という形であれば、決算書の様式というのは、これは決まりで決められていますので、そのような表をちょっと工夫して考えてみたいと思います。

以上でございます。

○委員長(神子 功) ほかに質疑はありませんか。

よろしいですか。

(「なし」の声あり)

○委員長(神子 功) 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

続いて、議案第9号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

病院経理課長。

○病院経理課長(鈴木清武) それでは先日、補足説明で一部申し上げましたけれども、決算書の25ページをお開きいただきたいと思います。

前年度決算との比較をご説明申し上げます。

事業収入に対する事項ですが、入院収益では患者数の減少がありましたが、単価の増により対前年度比2億3,600万円の増加、また外来収益では全国的な外来患者数の減少などがあ

りましたが、やはり単価の増により対前年度比2億5,700万円の増加となり、事業収入全体では対前年度比2.0%の伸び、金額にいたしまして6億300万円の増となりました。

続いて、26ページをお開きください。

事業費用に関する事項ですが、経費は対前年度比2億900万円の増額となりました。これは主に委託費の再整備事業関係業務、派遣業務委託増、それからSPDの開始等によるものであります。材料費は医師、薬剤師が一体となつての価格交渉といった平成18年度から引き続いての材料費削減への取り組みや、ジェネリック薬品の使用に加え、経費削減プロジェクトによるさらなる診療材料費の削減を図り、対前年度比1億7,700万円の増額になり、事業費全体では対前年度比1.7%増の5億1,500万円に抑えることができました。

このような経営努力によりまして、当期純利益では予算を大幅に上回ります3億9,900万円余りを計上することができました。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について質疑がありましたらお願いいたします。

日下委員。

○委員（日下昭治） 医業外費用の中で雑損失というのがありますけれども、そのだいたい主な内訳を若干お知らせいただければと思います。

○委員長（神子 功） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） それでは雑損失の内訳なんですけど、一つは今回、再整備事業ということで平成20、21、22年度の3年間で継続事業を今行っております。ただ、それ以前に再整備事業に係る、いろいろな支援業務とか、そういう調査関係を行いました。そういった費用が建設調査費の科目で出ておまして、今回、再整備事業ということで新たな予算がつきましたので、監査委員のほうにちょっとお聞きしまして、要は過年度分については雑損失で処理をいたします。その金額が1,220万円ほど雑損失で処理しております。

それから当年度分、平成20年度分については、それぞれの委託費の科目へ振り替えしました。この科目処理をしたのが12月ごろに実施しております。

それからもう一つは、診療報酬の査定減であります。昨年、DPC導入ということで、DPC導入により診療報酬の査定減は、従来よりも減るだろうという形で予算措置をしたんですが、実際のところ、今までとそれほど変わらない状況で査定減がございました。平成20年

度の診療報酬の査定減としましては1億2,874万2,000円ほどございます。

もう一つは、取り立て不納欠損額です。これについては平成20年度決算額では1,667万8,000円ほど欠損処理をしております。平成18年度は975万4,000円、平成19年度は1,006万4,000円という形で、金額的には660万円ほど増えておりますが、1人の外国人の患者さんで1,072万5,000円ほど欠損処理をしている患者さんがおありまして、この金額がちょっと大きく影響してまして、今年度1,667万8,000円という金額で処理をしておりますが、これを除けば平成19年度よりも大幅に減少しているというような状況でございます。

以上です。

○委員長（神子 功） 日下委員。

○委員（日下昭治） 今、内訳若干メモをし切れなかったところもあるんですけども、億単位のやつ、たしかさっき1億二千幾らのやつ、あと何千万のやつ、ここで7億出ますよね、7億4,778万円、それでその積み重ねがそんなになるんですかね。

○委員長（神子 功） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） それでは、決算書の36ページをお開きください。

その下のほうにございます。こちらの4番目のところに消費税雑損失というのが5億8,800万円ほどあります。これが日下委員が言った、総体で7億幾らという中の内訳の中に大きな部分が占めております。

（「分かりました」の声あり）

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

島田和雄委員。

○委員（島田和雄） 一般質問のときにも若干お伺いしましたけれども、DPCの話なんですけれども、平成20年度からDPC導入しまして増収効果が図られるとといった中で、たしか2億数千万円増収したといったようなことでしたけれども、その辺よく、もうちょっと説明をお願いしたいと思います。たしかだいぶ前に一般質問のときにお伺いしたときは、DPCの増収効果は4億7,000万円見込んでいるといったような答弁が記憶に残っているわけなんですけれども、その辺と比較してどういうことだったのか、その辺をお伺いします。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 一つは、皆さん、ご存じのように、昨年7月に銚子市立病院

の閉院という形で、9月いっぱい休院となりまして、今までこの地域の医療連携の中で、旭中央病院というのは急性期の患者さんを主に診ているわけなんですけれども、急性期を脱した患者さん、それを近くの病院等に患者さんを転院していただくというような形でやっているわけなんです、銚子市立病院の影響がありまして、要は銚子方面の転院先、本来、受け入れてくれる病院がもう満床状態になっていたというのがあります、要は患者さんが、思った計画どおりにうまく転院できなかったというのがあります。この辺がDPCの本来効果がうまく働かなかったというのが一つの原因じゃないかなと思います。

○委員長（神子 功） 島田委員。

○委員（島田和雄） 患者さんの転院が思うようにできなかったということですが、ということは、患者の回転が思うようにいかなかったというようなことで、そういうことでしょうか。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） そのとおりだと思っております。本来、例えば診療群ごとに診療日数とか、だいたい基本的なやつが決まっているんですが、転院先がなかなか見つからないという中で、在院日数が少し延びていたのかなということです。

○委員長（神子 功） 島田委員。

○委員（島田和雄） そうしますと、やはり中央病院の収益を上げるには、医療連携と申すか、転院先の確保を含めた連携ですか、そういうのが大事になってくるんじゃないかなというふうに思っていますけれども。

それともう一点は、7対1看護なんです、これは平成23年度から導入といったようなことだろうと思いますけれども、これに向けての現時点での看護師の確保の状況はどのくらいかお伺いします。

○委員長（神子 功） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） 島田委員の今の7対1看護の状況ということでご質問がございましたので、お答え申し上げます。

現在、4月の段階での看護師数は758名ということで動いております。昨年より約30名ほど看護師の方は増えております。これは7対1の場合には患者さんの数等の影響によりまして総員数が決まってくるんですが、その平成23年4月の段階では800人と、確定的な看護師

の数、これは産休ですとか長期欠勤、それから育児休業、介護休業、一切除きまして、あくまでも病院に常勤として勤務する看護師を800名ということが、オペ室ですとか外来、そして病棟を動かすのに最低必要な人員と考えておりますので、現在よりも約40名増えた数が7対1看護の基準のラインだと思っています。ここで申し添えますと、平成23年4月の段階で、看護学校の卒業生が現在の40名から60名ということでございまして、入職、退職の差し引きを考えますと、平成23年4月が病院としては無理なく7対1をとれるような状況ではないかというように考えております。

以上でございます。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

林七巳委員。

○委員（林 七巳） 2点ほどお聞きします。

34ページの臨時職員報償及び賃金、日々雇用雇上料と書いて、これはもう少し詳しく、どういうところに何名いるのか、それでだいたいどのくらいの給料が払えているのか。

それから35ページの委託料、これは委託先、それからその委託先に何名の職員がいるのかお聞きします。

○委員長（神子 功） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

○病院総務課長補佐（片見武寿） 臨時職員について回答申し上げます。

平成21年4月の臨時職員は48名で、看護部に所属しておりまして、看護助手という形で仕事しております。

以上です。

○委員長（神子 功） 大変恐れ入りますが、課長、次長、部長以外の方で、職員の方につきましては、ご自分のお名前を名乗っていただきまして答弁をお願いしたいと思います。

もう一点、委託料につきましては……。

（発言する人なし）

○委員長（神子 功） 病院関係者に申し上げます。質疑者のことについて、もしも答えられる範囲で答えていただいて、それが間違っていれば、あるいは違う答弁であれば、質問者はまた質問すると思いますので、判断をした内容について答弁をいただきたいと思います。

病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは、今の人数の件につきましては、契約室の太田よりお答え申し上げます。

○委員長（神子 功） 病院契約室長。

○病院契約室長（太田信春） 契約室の太田です。よろしくお願いいたします。

今、委員のご質問につきまして、委託の中の派遣人数ということで、平成20年度の派遣の人数ということでお答えさせていただきます。平成20年度は派遣のほうは年度末、3月末の時点でございますが118人ということでございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（神子 功） 林委員。

○委員（林 七巳） この4の臨時職員及び日々雇用の、こっちのほうの人数はまずいないんですか。それとこの15の委託料の業務委託先の会社名、もし分かりましたらお願いいたします。

○委員長（神子 功） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それにつきましては、総務課の片見のほうより、1点目の件に関しましてはご報告申し上げます。

○委員長（神子 功） 総務課、お願いします。

○病院総務課長補佐（片見武寿） 総務課の片見です。

すみません、先ほど臨時職員のところ、平成21年4月の臨時職員の人数をお答えしましたが、3月末ということでありますので、もう一度お答えしたいと思います。平成21年3月末、平成20年度3月末の臨時職員なんです、こちらのほうは、このときに臨時職員と表示しているものは主に研修医でございまして52名が、ここの主な臨時職員でございます。

以上です。

○委員長（神子 功） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは続きまして、委託先の会社数につきましては、契約室の太田よりご報告します。

○委員長（神子 功） 病院契約室長。

○病院契約室長（太田信春） それでは、契約室からお答えさせていただきます。

平成20年度、先ほど118名ということでございましたので、まず1社、こちらクオンという会社でございますが、平成20年度末72名、別のもう一社、エイイーエス、こちらは46名、合計118名ということでございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

日下委員。

○委員（日下昭治） 質疑というより、先ほどちょっと素朴な疑問というのは、ちょっと控室で話し合ったのは、ちょっとまだいろんな機会ですのでお知らせいただきたいと思いますが、例えば交付税の繰り出し等、ここに詳しく入っております。当然そういったものに対して、いろんなもの、救急医療施設あるいは救急センターの病床数等によって、これは大きな交付税措置されるものがあるわけがございますけれども、その救急医療を扱っているということに基づいたものだと思います。その中で、例えば救急へ入る市内患者、市外患者がありますね、例えばそれが医療費に影響してくるのか、市外と市内の差があるのか、恐らくそのほか差がある部分はあると思いますけれども、そういったものが、もしあれば多分、点数ではないんじゃないか、あるんだろうかという話が出たもので、その辺をできれば、せっかくの機会ですのでお知らせいただければと思います。

それと診療報酬に一定の点数が、すべて同じに、どこの医療機関でやっても同じな点数になるのか、その辺をちょっと、せっかくですのでお願いしたい。

○委員長（神子 功） 日下委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは、日下委員の今のご質問に対してお答えします。

2点ほどあったと思います。まず市内と市外の医療費の違いということですが、日本の国自身が皆保険制度ということで、これは市内市外に関係なく、どちらからいらっしゃっても点数的には一緒です。極端な話、北海道からお越しになっても、あるいは市内からお越しになっても、診療費という名目では一緒です。

ただし、1点だけ違うのは、市内の方は自由診療、例えば個室、室料差額等の料金に関しましては、市内の方は減免、安くしております。市外の方は通常どおり取るということで、診療報酬の部分に関しましては、これは差はございませんが、自費部分に関しましては、この市内と市外に差を設けているということがございます。

あともう一点は、診療の施設によって点数が違うかというお話だったと思うんですが、これは違います。現実的には先ほどお話ししました7対1あるいは10対1という看護基準ひとつをとっても、それによって点数が違いまして、その3割負担ですとか、あるいは1割負担ということになりますと、必然的に看護基準が高いほど、個人の利用者の方は多少負担額は増えてくるということになりますから、基準額が高い病院、例えばあとは特定診療の大病院

院ですとか、これは医療費はおのずから一定割合を払う以上は高くなってしまふということがあることだけはご了承いただきたいと思います。

ただ、これに対しまして、安全のために看護師を多く配置する、あるいはドクターを多く配置するというような基準になっておりますので、これによって料金差が若干出てくるということだけは、ちょっとご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） どうもご苦労さまでございます。

決算書を拝見しまして、まず材料費は約3億円、経費が2億5,000万円、すごく絞って無駄のないように運営を進めたのかなというふうに感じています。ただ、その中でちょっと気になるのは、例えば34ページの材料費の中で、患者用給食材料費、予算1億7,000万円に対して1億3,700万円、約3,500万円削っています。それから37ページの養護老人ホームの事業費で、これは1億8,000万円を医薬材料、日用品等で3,000万円ほど削っています。随所に材料経費を儉約しているなというのをすごく感じます。そういったことで、そういった工夫をして利益を出していただいたということで大変感謝しております。ご苦労さまでございます。

ただ、あとちょっと二・三、気になるのは、売上げが思うように、収益のほうが行かなかつたということの理由のひとつで、こちらのほうで見ますと、何か医師がいないために、ちょっとベッド利用数が減っているということが書かれているんですけども、監査意見書のほうですけども、100ページなんですけれども、「一部診療科における医師の減少が要因としてあげられる」と書かれているんですね。上から7行目ですけども、もう95%以上の利用率ですから、そんなに問題にはならないんだろうと思うんですが、もし、そういう科があれば、何科なのかなと教えていただきたいということ。

それから、先ほど経費の削減の中で、特に看護専門学校は、これは37ページですね、これの奨学金も約1,400万円ほど予算より減らされているんですね。もともと看護専門学校とはそんなにもうかるものではないし、よくよく考えてみれば、確かにそうだったと思うんですね。それで、看護学校の収益で、たしか収入のほうで繰入金、これが32ページですけども、1億2,000万円予定していたのが9,900万円になりましたと。それで、病院事業ですから、できるだけあまりお金をかけたくないというのは分かるんですけども、この辺のところ、じゃ、ここで款別を見ると1ページの第3項で、予算額に比べて一番減っているというとおか

しいんですが、全体じゃないですけども、看護師養成事業収益というのが予算に比べて2,000万円ほど減っているわけです。それで私も看護学校を大学にしてほしいと言っているくらいですから、ひょっとしたら、市のほうでもっともっと援助しなきゃいけないのかなということで、先週の決算委員会で繰出金がどのくらい出ているのかということで質問させていただきました。看護師養成所生徒分として8,900万円くらい出ているようですね、予算では1億2,000万円くらい当てにしていたのかなと。その分くらい減っているというような感じなんだろうと思うんですけども、この辺はできればもう少し、力を入れたいところだなと思っているんですが、何しろ市から援助をもう少し出せればいいんでしょうけれども、この辺のところはどういうふうに考えていらっしゃるのかをお尋ねします。

それとあともう一個は建設調査費というのを一部償却して、建設仮勘定のほうに繰り入れたという話なんですけれども、建設仮勘定というのは、多分来年度は10倍ぐらいに膨れ上がるんだらうと思うんですが、そうするとかなり金額が大きいので、その明細というとおかしいんですが、あらかじめ知っておいたほうが、どういうふうに変化するのかなということでとらえやすいと思うんですね、いちいち聞かなくても。そういった意味で、できれば建設仮勘定のほうの一覧表みたいなのがあったら、後ほどでもいいんですけどもいただきたいと思っていますけれども。

以上、お願いします。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） それでは看護師養成所のほうの、まず収入の件なんですけど、これについては平成19年度1人当たり77万7,000円という単価で補助金、繰入金をいただいていた。これで平成20年度の予算を立ててあります。それとあと実際には前年度の4月1日現在の看護学生の人数、これに基づいて、このくらいになるだろうという形で予算を立ててあります。それに対して平成20年度の実際の国からの繰り入れの基準額が、これは62万7,000円ということで、1人当たり約15万円ほど減額になっております。こういった影響で、当初の予算よりも2,000万円ちょっとマイナスになっているというような状況でございます。

それから、先ほどもう一つ、給食費関係のがございました。これは先ほど一部診療科で医師不足、それにも多少影響はするんですが、精神科のほうの患者、こういったのが減少しております。給食食数が平成19年度が72万8,697食から平成20年度は71万3,816食ということで2%ほど減少しております。こういった影響で対前年度比減少というような形になってお

ります。

それから、近くの市場とか、そういう形で買い付け等を行って、食材単価の引き下げ、こういういったものも努力しております。

以上です。

○委員長（神子 功） 病院再整備室長。

○病院再整備室長（鍋木友孝） もう一点ございまして、建設調査費絡みの件であります。こちらのほうですけれども、予算で建設費がつくまでということで、仮に建設調査費としていたところがございます。それで、先ほど経理課長から話がありましたように、平成20年度におきまして監査委員にご意見を聞きました。そのものによって、内容によってはその通常の建設仮勘定にいくもの、それから、そうではなくて委託費にいくものということで分かれました。それで通常の現年度のものは委託費に、それから過年度のものは、先ほどありましたように雑損失にということで分けたものでございます。ですので、今後の建設費関係につきましては、明細等を建設仮勘定とか、そういうようなことで通常にやっていくことになろうかと思っておりますので、機会がありましたら、それをお見せしたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 病院事務次長。

○病院事務次長（石鍋秀和） それでは最初、佐久間委員からお話がありました、不足している診療科のドクターはどこだということがございましたのでお答えします。一番不足しておりますのは麻酔科でございます。麻酔科が一番不足しております、これは麻酔をすべてコントロールするというので大きなオペ、特に三次救急病院ですと絶対必需ということになるんですが、これが不足しております。そして神経内科、俗に言う難病と言われますパーキンソンですとか、その辺の神経難病の疾患の神経内科の先生、そして精神科です。この3科がどうしても逼迫しております、また一部は非常に開業医の先生が少ない、耳鼻科ですとか、その辺も一遍に一次で私どもの病院に来てしまうと困りますものですから、一部紹介状という市外の方は紹介状をぜひお持ちくださいという形で、多少、外来に関しましてコントロールしているということがございます。

入院に関しましては、先ほど繰り返しになりますが、麻酔科、そして神経内科、この辺の科が非常に逼迫しているというのが現状でございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 病院の補助金というか、交付税分ということで、ちょっと減ったみたいですが、この奨学金で8,332万円というのがありますね、出ているのが。これは奨学金、よくお礼奉公をしてくれるからということで聞いているんですけども、この8,332万円という奨学金は行きつきりですか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） 一応3年間、旭中央病院に勤めていただいた方に関しては返還を求めないという形で運用しております。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 3年間と言われましたけれども、お勤めしてくれなかった方は返してもらうんですか、その収入はどこかに入っているんですか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（鈴木清武） そういう方も何人かおまして、その方については収入で計上しております。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） すみません、ほかで一生懸命節約されてご努力されている中で、やはりこういうふうに看護師を養成しなきゃならないと、それだけの費用がかかると。できるだけ補助金なり、何かここで、市のほうでも本当はバックアップしなきゃいけないんでしょうけれども、全部一応繰出金は交付税算入のみという話になっているようでございます。これで今これだけ使っているんですけども、実際3年間お礼奉公してもらって、これは使った分くらいは、かなり元が取れているとお思いですか、だろうと思うんですけども、その辺をちょっと聞かせていただきます。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（渡辺清一） 今、佐久間委員から、元が取れているのかということですが、病院自体、やはり医者と看護師がいまないと収入が上がりませんので、こういう昨今の医師不足、看護師不足の中で、病院といたしましても、この地理的な不利な条件の中で、積極的に看護師を確保する一つの方法として、やはり自前で看護学校を運営して、その看護学生に当病院で働いてもらうということで看護師を集めていると、こういう状況でございま

すので、確かに半分ぐらい病院の持ち出しという形で、経営的には非常に学校単体として見れば苦しい状況にありますけれども、これらはやはり病院を維持していくために当然必要な経費かなど。当然、市のほうから何らかの援助なりがいただけるのであれば、これは病院としては大変ありがたい話にはなりますけれども、そうは言っても現実には病院として人手不足を解消するために、何とか一生懸命、今は定員も増やしましてやっている。これは結局、医師と看護師の充足につながって、最終的には病院の収入に上がっていく、広い意味では必要な経費としてペイされているのかなというふうには考えております。

あまりお答えになりませんが、以上でございます。

- 委員長（神子 功） 佐久間委員。
- 委員（佐久間茂樹） どうもありがとうございます。
- 委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。
よろしいですか。

（発言する人なし）

- 委員長（神子 功） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号について担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
国民宿舎支配人。

- 国民宿舎支配人（堀川茂博） 議案第10号ですけれども、本会議でご質疑等もいただいておりますので、特に補足はございません。よろしくお願ひしたいと思います。

- 委員長（神子 功） 担当課の説明は終わりました。
議案第10号について質疑がありましたらお願いいたします。
高木武雄委員。

- 委員（高木武雄） いろいろ本会議で問題になりました。その件はその件として、リニューアルオープンしてから現在までの収支の状況、これは直接の決算書とはかかわらない、一部かかわる部分もありますけれども、もし分かれば状態をお聞きします。

- 委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。
国民宿舎支配人。

- 国民宿舎支配人（堀川茂博） それでは、手短かに説明したいと思います。

平成18年度から、本会議でも申し上げましたけれども、経営診断を行いまして、それからさらに基本計画あるいは基本設計という形で、一気に平成18年度に入ったわけですけれども、リニューアルオープンにつきましては、実際には平成19、20年度、継続費に入っているよう

に2か年で行われました。1年目につきましては、レストラン、あるいは一部、本当の金額にしますとごく一部でございますけれども耐震というようなことで、平成20年度につきましては客室という形でリニューアルをいたしました。本会議でも申し上げましたとおり、質問に対してお答えしましたとおり、防水等々の工事については、それらに入っていなかったということでございます。

それから、客室のほうですけれども、前は定員が160名、39室あったわけですが、リニューアルオープンしたことによりまして、これが30室の88名ということで定員が半減しております。30室のうちの18室につきましては、これは洋室でございます。ツインの部屋と申しましょうか、2人部屋というような形で、お示しのとおり定員が半減したということです。これはコンセプトが、これは統計資料のようですが、これからの時代は個人客、グループ客になると。団体客については激減するというような形で、そういう改装工事が行われました。趣旨のほうも平成17年までは黒字でしたけれども、平成18、19、20年から経営が非常に悪化いたしまして、年々純損失が増えていったということで、本決算については4,091万8,000円ということが大ざっぱな概況でございます。よろしいでしょうか。

○委員長（神子 功） 高木委員。

○委員（高木武雄） そうじゃなくて、リニューアルオープンしてから、きょうまでの大ざっぱな収支でもいいんですが、それが分かればと思ったんですが、トータルは出していないですか。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） そうしますと、12月から現在までということになりましょうか、それとも3月までと。

（「両方」の声あり）

○国民宿舎支配人（堀川茂博） 両方ですか。金額で申し上げますと、少しお待ちください。

まず、ちょっと正確な金額ですけれども、平成20年12月がちょっと半端になっておりますので、今年の要するに1、2、3月ということになりますけれども、まず宿泊の金額でございますけれども、1月が623万9,300円、2月が468万5,809円、3月が768万9,979円という、宿泊施設ですので、宿泊のほうの主になろうかと思っておりますけれども、シミュレーション、計画との乖離ですけれども、乖離はこれは大きく差がございます。ただ、3月は例外的に計画どおりにほぼいっていると。宿泊者数につきましては、リニューアルオープンすることによ

って、先ほども申しあげましたけれども定員のほうが半減しておりますので、前の宿泊料金よりも一応倍近い料金にはなっているんですけども、それにしても思うように実際のところはいっていなかったと。

それから、今お尋ねの3か月ないし4か月ということになると、国民宿舎、食彩の宿いいおかが、シーズン時期が7月、8月と、7月15日から8月15日がシーズンでございますので、シーズンを外しておりますので、これもまた決算書の1、2、3月では非常に読み取りにくい状況です。

今年のそれでは実績ということになりますけれども、これは決算書の範囲を超えますけれども、やはり本会議でも申しあげましたとおり、非常に今年の7月は天候不順で、シーズン中も大変厳しかったというのが現状です。

ただ、宿泊のほうは減っておりますけれども、リニューアルオープン後、1、2、3月はちょっと金額的には厳しいんですけども、4月以降につきましては、これは宿泊者につきましては、あくまでもインターネットの個人客、要するに申し込みに頼っているわけなので、団体客と違いまして、これは営業が非常に難しいと。じゃ、そのほかの収入はということになりますと、レストランの収入であるとか、あるいは売店の売上げとか、あるいは宴会をどれだけ行えるかと、宴会客ですね、こちらのほうにつきましては、宴会場、一つになってしまったわけですけども、そちらのほうについては、一応、現在まで4月以降、急上昇をしているというのが現状です。

ちょっと3か月ないしは4か月では、ちょっとなかなか読み取りにくいというふうに思います。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 高木委員。

○委員（高木武雄） 数字どうのこうのという、私が今聞きたかったのは、平成20年度の決算、これが悪いというのは、工事をやっていたから仕方がない面もかなりあると思います。ただ、それはリニューアルしてから、今後、収益、経営が好転される見込みがあるのかないのかというのを今、数字をちょっと見せてもらって聞こうと思ったんですが、数字が出ていないということであれば、聞き方は別として、このリニューアルしたことによって、今後、どのように経営改善をやっていくのか。今の話を聞くと、あまりリニューアルしても経営改善はできないというようなニュアンスに聞こえましたけれども、今後それをどのように改善していく計画があるのか、思いがあるか教えていただきたいと思います。

○委員長（神子 功） 高木委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） 私、できないとは申しておりませんが、非常に厳しい関係、環境にあるということは、決算書でも読み取りいただけるのかと思います。それで私、専門家ではございませんので、一言で今後、どうこう言える立場ではございません。ただし、経営改善の方法としては、先ほども少し触れましたけれども、やはりまず今できることをしていくということで、一つは職員の、これは接客マナーというものを、どんどんレベルアップしていくと。それから先ほど言いましたようにレストラン、あるいは売店、それから宴会客については、これはできることですので、営業活動をどんどん、現在も行っておりますけれども、さらに香取市、あるいは市内であれば干潟、海上方面、それから山武市のほうに営業活動を進めていくと。

ただ、実際、宿泊客につきましては、本当に電話の申し込みとインターネットの申し込みに頼っておりますので、こちらについては手のつけようが非常にないというのが今の現状です。ただし、インターネットにつきましてはアクセスがよいように、これは4月からすぐ、インターネットを申し込むときに、どうしても国民宿舎あるいは飯岡荘というのが従来の名前とか、あるいは国民宿舎で検索が可能ないように、インターネットの表示されていない部分ですけれども、ソースという部分をすぐ改造は行っております。ただ、現実的には経済不況等もございまして、非常に宿泊、飲食業は厳しいというところまでしか申し上げられません。

以上です。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

柴田委員。

○委員（柴田徹也） ちょっとお尋ねをいたします。

12ページの主要指数の中に、いろいろ月別の利用率、1日平均の利用人員とか表が出ておりますけれども、この利用率というのは定員に対しての率なんですか、一番最後の備考欄、定員に対してですよね。やっぱり、このサービス業、何と言いましても、この利用率を上げることが大事だと思うんですよ。施設はもう造ってあるわけですし、それに合わせてある程度人員の配置もあるわけですから、これを上げていくという、だいぶ低いところもあります。その辺、料金の話をこの間していましたよね、それはどんなふうに感じていますか、今の料金体系については。

○委員長（神子 功） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） 料金につきましては、ちょっと何通りもございますけれども、平均で約1万2,250円がリニューアルオープン後の料金となっております。これについては、個人的な意見ということになるかと思えますけれども、ちょっと部屋だけの改装等となっておりますので、個人的にはちょっと高いというふうに感じております。

以上でよろしいでしょうか。

○委員長（神子 功） 柴田委員。

○委員（柴田徹也） 今、高いと感じているということでございます。民間の宿泊施設の場合には、その需要と供給というものに対して非常にシビアでして、例えばゴールデンウィークとか夏休みのお盆の時期だとか年末年始、これはもう完全に埋まると。これはもう長い経験でプロですから、それは考えまして、この日は絶対埋まるといったときには、ばんと取るんです、もう何としても取ります。いいですよ、来てくれなくてもいいよ、それで泊まってくれる人がいるわけです。もうちゃんとこの辺は需要と供給ではかっていますので、ばんとやっています。それから、この日は絶対甘いなど、埋まらないといったときには、一流旅館であっても、1泊2食つきで8,000円でも7,000円でも、今はひどいところは6,000円で泊まれます。この辺が需要と供給でびちっとやるんですね。そこがなかなか、この国民宿舎では難しいところだとは思いますが、一般の一流旅館がそうやっている以上、やっぱりある程度やっていかないと、きっとこの経営というのはいかにうまくいかないんじゃないかなと思うんですね。

それで今、インターネットで予約をされていると、それがだいぶ多いということでございますが、逆に聞きたいんですけれども、インターネットで最初は食彩の宿だからいいだろうと思って、きっと予約してくると思うんです。いや、ちょっと高いけれども、このシーズンにしてはちょっと高いけれども、行ってみようと思って来ると思うんです。その方が、あとどう感じて帰られるか、その評判というのはいかにいいですか。

○委員長（神子 功） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） まず1点目の料金でございますけれども、委員、専門家でございますので、うちのほうも答えづらいんですけれども、一つはシーズン料金、これは行っております。今、委員がお尋ねの、たくさん取るというほうをハイシーズン料金というふうに言っているんですけれども、そちらのほうは、うちのほうは設定してございません。料金

もちろん、需要と供給のおっしゃるとおりバランスで、その都度対応できれば、これは最高にいいと思いますけれども、一応、市の施設ですので、基本的には条例と。あとは市長の権限で30%以内の改定が可能ということになっております。それらも今あるものを、できるだけ生かして、宿泊者の料金に反映させたいというふうに思います。

それから2点目ですけれども、こちらについては、私が直接聞く限りでは、料理につきましてはかなりの材料費を使ってやっておりましたので、そちらについてはご不満はないようです。ただし、施設については、あくまでも国民宿舎ということで、もう少し安ければなどという意見はちらほら聞かれます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 柴田委員。

○委員（柴田徹也） いろいろ大変だと思います。リニューアルしたとはいえ、一流のホテルから比べると、これは施設は正直言ったら太刀打ちできないと私は思うんですね。例えばおふろにしたって、ちょっといい温泉場のおふろは、もう露天風呂があって、すごい施設があるわけで、それが飯岡荘のおふろに入ったら、温まって非常によかったとかと、そういうちょっとレベルは違うと思うんです。ですから、ちょっとこれは来年度以降に対してのあれですけれども、料金改定を考えていらっしゃるということです。それはもちろん高く泊まっていた方がいいのが経営、いいのは分かるんですけれども、逆にある程度抑え気味にして稼動を上げて、泊まってくれたお客さんが、多少、お酒を飲んでくれる。それから売店で土産を買ってくれる、そういった形で大勢泊まっていた方がいいのかなと。1万円掛ける10人よりも、例えば5,000円掛ける20人のほうが価値があるのかなと。ちょっと今、大げさな話ですよ、そんな形で考えられた方がいいかなと思います。

以上です。

○委員長（神子 功） 柴田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） 委員、専門家ですので、またいろいろこれから教わりながら、できる限り努力してまいりたいと思います。

以上でございます。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 高木委員、柴田委員からお話ありまして、その続きに同じようなこと

になってしまうのかもしれないですけども、やっぱり12ページ、ありますね、4月、5月、6月、まあ3月まで出ているんですけども、8月の49.6%ですか、8月は別として、16%、9、10、11月とか、これはちょっと私も心配になったので、まずお客を確保することということで、昨年、議会でお年寄りに2,000万円ぐらい一般会計から出して、それを国民宿舎のほうに回すというとおかしいんですが、お年寄りに泊まっていただくと、地元の方にね。左のポケットから右のポケットにお金を移すだけで数千人の人がサービスを受けられると。しかも国民宿舎が赤字にならなくて済むと、そう思ったもので、ちょっと昨年の議会で市長にお願いしました、やっていただけませんでしたけれども。

ただ、これは9月、10月、11%、14%のときに、これはただインターネットが来るのを待っていただけだったんですか、何かやっぱり手を打てなかったんですかね。例えば運営委員会、いらっしゃいますよね、まずその辺ですね。

それと今年度も今、補正で出ていますけれども、売上げが1,000万円くらい増えるんですか、一応でも3,000万円くらいの赤字の予定になっていると思うんです。これは毎年2,000万円、3,000万円、3,000万円と赤字累積していったら、手がつけれなくなっちゃう、いずれ。何らかの手を打たなければいけないと思うんですよね。そのためにも、この要するに平成20年度の決算で、このときに何をしたのか、どうすればよかったのかということが大事だろうと思うんですよ。

私は、もう市から無料宿泊券を出して、2,000人、あるいはそれにプラス付き添いが2,000人ぐらい入るから4,000人ぐらい入るから、1人1万円としても4,000万円ぐらい売上げが上がるのかなと、そう思ってお願ひしたんですけども、それに代わる、例えばクーポン券とか、地元の人に、これは例えば9月、10月辺り、今辺りですかね、先ほど高木委員から質問がありましたけれども、今現在どうなっているのかという話ですよ。今年約1億8,000万円の売上げが確保できるのかどうか、その問題もちょうどタイミングが今合うと思うんですけども、この平成20年度は、ただ待っていただけだったんですかね。今年どうすればいいのか、その辺を含めて、ちょっとお願いできればと。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） まず最初に、運営委員会の関係なんですけれども、運営委員会の委員さん方につきましては、諮問機関ですので、対応といっても諮問事項がなければ、これは特に、ただ委員さん方も厳しい状況を多分把握していらっしゃって、自分の私的な宿

泊者とか、そういうのについては宿泊させていただいている、あるいは宴会なんかも同様と
思います。

それから次に、赤字の関係ですけれども、これにつきましては、非常に計画書、実際には
計画書が平成18年からもう赤字になっておりますので、平成18年の269万円、平成19年がも
う2,089万円、平成20年度については4,091万8,000円、それも昨年の12月を思い出してい
ただければ分かりますかと、この決算書にも入っておりますけれども、資金ショートする可能性
があるということで、12月にさらに2,000万円を一般会計から長期借入れをしております
ので、これらの状況から、実際に今回の改修計画を行っている時点では、営業は全く中止し
ないでできる方法をやはり講じておりますので、そういう方法をとれるから、この計画はで
きるんだというふうに多分なっていたと思います。

したがって、厳しい状況というのは、もうやっている時点から、かなり見えていたという
ふうにしか言いようがありませんけれども、今後どうするかということですが、まず
平成20年度もご覧になっていただければ分かりますけれども、本採用の職員といたしますか、
企業職員を平成19年度から見ますと、もうこれは削減しております。まず人件費の削減とい
うのは冒頭に今後も置かなければいけないというふうにまず思われます。

それから、ざっくり例えば料理の料金とか、そちらも原価率とでも申しましょうか、そち
らのほうも考えなくてはならないと。さらには、どんなことでも費用のかかるものについ
ては、一つひとつ検証していかなければいけないと。なおかつ営業もしていかなければいけ
ないということで、ちょっと一言では申し上げられないような状況ですけれども、ただし現状
におきましては、それらについてはすべて、今度、委員、来ていただければお見せしたいと
思いますけれども、先ほど言いましたように、一人ひとりの職員まで全部マニュアルとか、
そういうものを作って対応するように、今できることから一つひとつ進めているのが現状で
ございます。

今年はどうなるのかということなんですけれども、現在までちょっとこれは決算なので、
今年のことを本当は申し上げる必要はないんですけれども、一步一步実行しているというこ
とで、今の時点におきましては資金ショートは免れていると。ただし、これから10月以降、
いつ資金ショートしても、これは宿泊施設ですので、宿泊者がいないというのは非常に厳し
いというのが言えますので、いつ資金ショートを起こしても不思議はない収支の状況でござ
います。

以上です。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 3月に出されている補正のほうでも、人件費、食事材料費等の増額ということで、経費だけは増えているんですね。売上げも若干、当初よりは増やしているようですけれども、そういうことで、要するに約1億8,000万円、2億円ぐらいの固定経費というのは、お客がいてもいなくてもかかっちゃうのかなと、前々からそうは思っていました。

ですから、まず売上げを2億円ぐらい確保するというので、今、宿泊客がない、とることが先だと言われましたけれども、この決算もそうですけれども、何とかしてその宿泊客をとって、常備用意されている施設、人員は、もうほとんど動かさないわけですから、これ以上減らせないということですから、あとはもう売上げを増やすしかない。柴田徹也委員が先ほど言いましたけれども、料金の問題もあります。それからターゲットの問題もあると思うんですね。まず、だから地元例えばクーポン券、ちょっと安売りで、年齢的に例えば70歳以上だったら幾ら、60歳以上だったら幾らというようなクーポン券でも発行して、ターゲットを地元絞って、そして来てもらうと。何らかの工夫が必要なんじゃないかと思うんですけれども、その辺は、ちょっとこれは決算からは外れますけれども、この決算の反省を踏まえて、また来年のときに3,000万円赤字ですと、累積が1億円近くになっていたのでは、これも大変な話になっちゃうと思うので、今のうちに手を打たなきゃいけないんだろうと思うんですけれども、その辺はどうですか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） まず初めに、ちょっと前後して申し訳ないんですけれども、地元の市民にクーポン券と、こちらのほうについても大変恐縮ですけれども、既に考えております。ただ、どう発信していったいいのかというのが、ちょっと今、検討中でございますけれども、それはそもそも条例中に、市民の割引というものが可能になっております。ですから、そちらについても、もちろん近いうちに検討した上で、そちらも考えていきたいと。

そのほかにつきましては、ぜひ、佐久間委員におかれましても、当食彩の宿いいおかを、ぜひ機会がありましたらご利用いただきたいと思います。できる限りいろんな方法を講じております。ただ、費用が増えるというお話がございましたけれども、これは私が行きましてからも、実際に施設が大変老朽化しておりますので、施設、建物も含めまして、あるいは機械設備、これら的大変故障が多いということで、3条予算のほうの修繕、あるいは場合によっては4条に回す場合もありますけれども、故障が大変多いので、そちらのほうはこれから

の売上げに当然、売上げを増やしていかないと資金ショートを起こすと、こういうことになるかと思えます。

ですから、先ほど申し上げました、いつ資金ショートを起こしても不思議はないという、ちょっとざっくり言わせていただきましたけれども、大きな機械設備等の故障等があれば、これはもう一気に厳しいということを上申上げてのことでございます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） かなり悲観的な、いささかがっかりして、何かお客さんは来ない、直すところは多い、もし、どうしても直さなければならなければ資金ショートすると。少なくとも今回、補正でそういう話は出ていないですから、そうお客がないのに大金をつぎ込むというわけにもなかなかいかないのかもしれないんですけども、まずお客を増やすと、売上げを増やすと、そういうことで努力をしていただかなきゃいけないと思うんですけども、今の答弁ですとかなり悲観的なんですけど、やめたほうが良いと思っていらっしゃるんですか。

○委員長（神子 功） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） だいぶ悲観的に思えるということですが、私が言っているのは、いろんな状況があるという中で、先ほど言いましたように、これは手元にも統計資料を持っておりますけれども、4月以降現在まで、今現在の私どもができること、これはまずレストランの売上げを増やすこと、それから宴会を増やすこと、それから売店の売上げを増やすこと、これらについてはすべて急上昇させております。ただ、先ほど言いましたように、宿泊定員が半減をしている中で、あくまでも宿泊施設ですので、その点が厳しいと。

それから施設設備につきましても老朽化が非常に厳しいと。例えば雨が降れば漏電を起こしたり、あるいは雨漏りを今、できる限り市長と相談しながら進めておりますけれども、悪いところも直しながらやらなければいけないという話をしていただいております。私にはできないということは申し上げていないつもりでございます。その点のところを、ちょっと表現が悪いかも分かりませんが、ご理解いただきたいと思えます。

以上でございます。

○委員長（神子 功） 国民宿舎支配人、先ほどこの委員会は平成20年度の決算をしておりますけれども、それによって今現在、進行形がございますので、もしもお話ができるようであれば、その努力の結果についても委員の皆さんにご紹介をさせていただいて、それを

参考にしながら、今後、委員としての次年度に向かっていろいろ検討してもらおうということにしたいと思いますので、参考にお話ができるようでございましたら、数値の上でお願いをしたいと思います。

国民宿舎支配人。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） それではまず、基本となります宿泊料金につきまして、高いというお客様の意見等を踏まえまして、まず最初に、柴田委員からもお話がありましたように、こちらについては来年の、ちょっと3か月前ということになりますので、1月以降、改正に向けて今、作業を進めております。これも本会議でも申し上げましたとおり、30%の範囲内のうちの約20%を取りあえずと。といいますのは、一たん、今度上げたものを下げますと、様子を見ないと、今度駄目だったから、また上げるというのも厳しいので、稼働率が計画書ですと約53%を超えていますので、毎日ですね、これは大変ハードルの高い計画書となっております。当然、実績は40%行くか行かないかぐらいの状況となっております。売上げでいきますと2億3,000万円ぐらい売り上げるのが予算書であり計画書になっているわけですので、現実的にはせいぜい1億6,000万円から1億7,000万円程度ということで、もうここだけで大変厳しくなっています。ですから、じゃ、料金を下げると稼働率はどうなるかといいますと、約70%を超えるような稼働率にしなければいけないようになります。ただし、お客さんが安くなったからということによって来てくれる可能性もありますけれども、これはやってみなければ分からないと。ただしやる価値はあるだろうと。あるいはお部屋を空かしておくよりは埋めたほうがいいだろうという状況のもとに、市長に決断をいただいて進めている現状でございます。

先ほど来、数字でちょっと手元で申し上げますと、非常に長時間かかってしまいますので、すべて4月以降につきましては、例えば宿泊料とか、それから食事料、それからお酒、飲料の売上げ、項目にして約30項目ぐらいを全部分けまして、シミュレーションのほうも常に計画と、それから現在の状況というのを、すべてシミュレーションで毎月、月の目標を決めて行っているのが現状です。もちろん、それらの方向については毎月、上司のほうに報告をさせていただいております。それがちょっと見えにくいかも知れませんが、こういう表になりますね。すべて計画と、それから予算、昨年とそれから現在の実績を棒グラフと折れ線グラフ、一番上にあるのが、これがちょっと非常に見にくくて申し訳ないんですけども、これがトータルになります。こういう常にパソコン上でシミュレーションを作りまして、経営努力を進めているところでございます。悪いものについては関係職員を集めまして、ミ

ーティングももちろん行っておりますので、ちょっと数字で金額ということになりますと、全項目申し上げますと大変時間がかかりますので、その辺でどうでしょうか。委員長、ちょっと大ざっぱで申し訳ないですけども。

○委員長（神子 功） お話ができる範囲と申し上げましたので結構でございます。

○国民宿舎支配人（堀川茂博） よろしく願いいたします。

○委員長（神子 功） ほかに質疑はありませんか。

（発言する人なし）

○委員長（神子 功） 質疑が特にないようでございますので、議案第10号の質疑を終わります。

以上で付託議案についての質疑を終わります。

水道課長。

○水道課長（横山秀喜） 先ほどの議案第8号の中で、佐久間委員からご質問のありました総係費が1,200万円ぐらい予算から減っているけれども、その主なものは何かという質問に対しまして、委託料が主なものの原因だというふうにお話ししました。その中で委託先を常陽メンテナンスと私ちょっと発言しましたけれども、株式会社ジェネッツの間違いですのでご訂正お願いしたいと思います。よろしく願いします。

○委員長（神子 功） よろしいですか。

議案の採決

○委員長（神子 功） それでは、これより討論を省略して議案の採決をいたします。

議案第2号、平成20年度旭市国民健康保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第2号は認定することに決しました。

議案第3号、平成20年度旭市老人保健特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第3号は認定することに決しました。

議案第4号、平成20年度旭市後期高齢者医療特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第4号は認定することに決しました。

議案第5号、平成20年度旭市介護保険事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第5号は認定することに決しました。

議案第6号、平成20年度旭市下水道事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第6号は認定することに決しました。

議案第7号、平成20年度旭市農業集落排水事業特別会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第7号は認定することに決しました。

議案第8号、平成20年度旭市水道事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第8号は認定することに決しました。

議案第9号、平成20年度旭市病院事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第9号は認定することに決しました。

議案第10号、平成20年度旭市国民宿舎事業会計決算の認定について、賛成の方の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（神子 功） 全員賛成。

よって、議案第10号は認定することに決しました。

以上で本委員会に付託されました議案の審査は全部終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（神子 功） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長（神子 功） 以上をもちまして、本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉会 午後 3時29分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会決算審査特別委員会委員長 神 子 功